

TASCAM
TEAC PROFESSIONAL

D01092401A

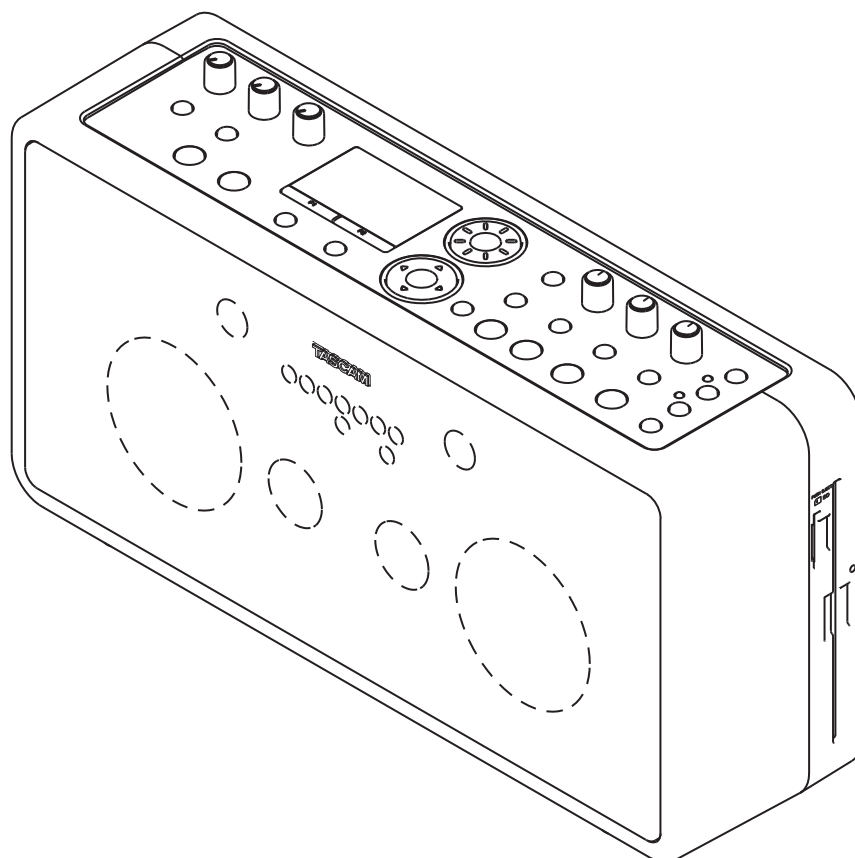
BB-1000CD

Portable CD/SD Recorder

BB-800

Portable SD Recorder



取扱説明書






安全にお使いいただくために

この取扱説明書の表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。




表示の意味

 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。




絵表示の例

	△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
	⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。







警告

	<p>万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店またはティアック修理センターに修理をご依頼ください。</p>
	<p>万一、機器の内部に異物や水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
	<p>万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
	<p>電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店またはティアック修理センターに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
	<p>電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
	<p>この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。</p>
	<p>この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。</p>
	<p>この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。火災・感電の原因となります。</p>
	<p>この機器の上に小さな金属物を置かないでください。中に入った場合は、火災・感電の原因となります。</p>
	<p>電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。</p>

⚠ 警告

	電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。
	この機器のカバーは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センターにご依頼ください。
	この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器の上に花瓶や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

	移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
	旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
	お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
	オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。
	電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届くようにしてください。
	この機器には、付属の専用 AC アダプター (TASCAM PS-1225L) および電源コードセットをご使用ください。それ以外の物を使用すると故障、火災、感電の原因となります。
	次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。 <ul style="list-style-type: none">・ 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所・ 湿気やほこりの多い場所・ ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所
	電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
	付属の専用 AC アダプター (TASCAM PS-1225L) および電源コードセットを他の機器に使用しないでください。故障、火災、感電の原因となります。
	5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センターにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用についてはご相談ください。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

電池の取り扱いについて

本製品は電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れ等を避けるため、以下の注意事項を必ず守ってください。

⚠ 警告 (乾電池に関する警告)



乾電池は絶対に充電しないでください。
乾電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

⚠ 注意 (電池に関する注意)



電池をいれるときは、極性表示（プラス ⊕ とマイナス ⊖ の向き）に注意し、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。

間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

使い終わった電池は電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村の廃棄方法に従って捨ててください。

保管や廃棄をする場合は、他の電池や金属製のものと接触しないように、テープなどで端子を絶縁してください。

コイン形リチウム電池は、小さなお子様があやまって電池を飲み込むと大変危険です。電池およびリモコンは幼児の手の届かない場所に置いてください。万一、お子様が電池を飲み込んだ場合は、ただちに医者と相談してください。

指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。

電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池を金属製の小物類と一緒に携帯、保管しないでください。電池がショートして液もれや破裂などの原因となることがあります。



電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてください。

電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

液が目に入ったときには失明の恐れがありますので、目をこすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師にご相談ください。液が体や衣服に付いたときは皮膚の怪我・やけどの原因になるのできれいな水で洗い流したあと、ただちに医師にご相談ください。

電池のセットや交換は、本機の電源を切った状態で行ってください。

長時間使用しないときは電池を取り出しておいてください。

電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。

もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。



分解しないでください。

電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。

目次

安全にお使いいただくために	2	第4章 録音する	24
電池の取り扱いについて	5	SDカードに録音するか CD に録音するか選ぶ (BB-1000CD のみ)	24
第1章 はじめに	8	入力を選択する	24
本機の概要	8	本機の内蔵マイクを使って録音する	24
BB-1000CD と BB-800 の違い	8	外部マイクを使って録音する	24
本製品の構成	8	ライン入力を使って録音する	25
本書の表記	8	録音するファイル形式を設定する	25
日本語パネルシートについて	9	SDカードに録音する場合	25
知的財産権に関して	9	録音時間について	26
設置上の注意	9	SDカードに新しいフォルダを作成する	27
結露について	9	録音する	28
製品のお手入れ	9	録音画面	29
SDカードについて	10	録音中にトラックを更新し録音を継続する	29
取り扱い上の注意	10	さまざまな録音の設定	29
CD (コンパクトディスク) について	10	マイクのバランスを設定する	29
取り扱い上の注意	10	モノラル録音する	29
CD-R と CD-RW ディスク	10	リミッターを使う	30
スロットインタイプのディスクの挿入	11	自動録音機能を使う	30
アフターサービス	11	再生中の曲と演奏をミックスして録音する (OVERDUB)	31
第2章 各部の名称と働き	12	より高音質でオーバーダビングする (DIRECT MIX)	33
トップパネル	12	CD-R/RW ディスクを他の CD プレーヤーで 再生できるようにする (BB-1000CD のみ)	33
フロントパネル	15	CD-RW ディスクを追加録音できる状態にする (BB-1000CD のみ)	34
リアパネル	15	CD-RW ディスクのトラックを消去する (BB-1000CD のみ)	35
左サイドパネル	16	第5章 再生する	36
右サイドパネル	17	SDカードのファイルを再生するか CD を再生するかを選ぶ (BB-1000CD のみ)	36
リモートコントロールユニット (RC-BB1000)	17	SDカードで再生するフォルダを選ぶ	36
ホーム画面	18	“BROWSE” 画面内のアイコン表示	37
第3章 準備	19	再生する	37
電源の準備	19	再生する	37
ACアダプターで使用する	19	一時停止する	37
電池で使用する	19	停止する	37
リモコンの準備	19	曲を選ぶ	37
電池の入れ方	19	早戻し / 早送りする	37
電池の交換時期	19	DATA 【データ】 ホイールを使って再生位置を移動する	37
リモコン使用上の注意	20	少しだけ戻す (FLASH BACK)	37
電源を入れる / 切る	20	曲をリピート再生する (リピート再生)	38
日時を設定する	20	一定区間だけ繰り返して再生する (ループ再生)	38
マイクを接続する	21	曲内の希望の位置にマークポイントを設定する	38
外部オーディオ機器を接続する	21		
ヘッドホンやアンプ / スピーカーを接続する	21		
本機の入力に外部オーディオ機器を接続する	21		
SDカードをセットする	22		
SDカードのライトプロテクトについて	22		
SDカードを挿入する / 取り出す	22		
SDカードをフォーマットする	22		
CD をセットする (BB-1000CD のみ)	23		
ディスクを挿入する	23		
ディスクを取り出すには	23		
ディスクの強制排出	23		

第6章 楽器の練習をする	39
楽器のチューニングをする.....	39
基準音を調整する (キャリブレーション).....	39
チューナーモードを切り換える.....	39
クロマチックチューナーモード.....	39
オシレーターモード.....	39
メトロノームを使う.....	40
速さ (TEMPO) の設定.....	40
拍子 (BEAT) の設定.....	40
メトロノームのスタート/ストップ.....	40
CD/SD に合わせて練習する.....	40
再生の音程を変える.....	40
再生のスピードを変える.....	41
特定の定位の音を低減させる (パートキャンセル機能).....	41
一定区間だけ繰り返して練習する.....	41
CD/SD に合わせた演奏を録音する.....	41
第7章 編集機能とファイルの操作	42
ファイルを分割する (DIVIDE).....	42
再生する順番を変更する (MOVE).....	43
不要なファイルを削除する (DELETE).....	44
第8章 便利な機能	46
外部マイクの音をスピーカーから出力する.....	46
オーディオ CD の曲を SD カードに取り込む (BB-1000CD のみ).....	46
SD カードのファイルを使ってオーディオ CD を作成する (BB-1000CD のみ).....	47
オーディオ CD をバックアップする (BB-1000CD のみ).....	48
第9章 環境設定 (SETUP 画面)	50
SETUP 画面.....	50
バックライトのオートオフ設定 (BACKLIGHT).....	50
ディスプレイコントラストの調整 (CONTRAST).....	50
フラッシュバックの設定 (FLASH BACK).....	50
日時を設定する.....	50
第10章 メッセージ一覧	51
第11章 トラブルシューティング	53
第12章 仕様	54
定格.....	54
オーディオ入出力定格.....	54
オーディオ性能.....	54
一般.....	54
寸法図.....	55

第1章 はじめに

このたびは、TASCAM Portable CD/SD Recorder BB-1000CD/BB-800をお買いあげいただきまして、誠にありがとうございます。ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいたうえで、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。

また取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト (<http://www.tascam.jp/>) からダウンロードすることができます。

本機の概要

- ポータブル CD/SDレコーダー (BB-1000CD)
- ポータブル SDレコーダー (BB-800)
- スピーカーおよびマイクを内蔵
- SD (SDHC) カードに直接録音することが可能 (WAV形式、MP3形式)
- 長時間録音 (MP3での録音)
- CD-R/RWに直接録音することができます (CD-DA形式) (BB-1000CDのみ)
- キーとつまみによるかんたん操作
- 音程を変えずにスピードを変えて再生が可能
- スピードは変えずに音程を変えて再生が可能
- 楽器用チューナー機能搭載
- メトロノーム機能搭載
- 5W+5W のデジタルアンプを搭載
- 前後に2組のステレオマイクを装備し、周囲360° の録音が可能
- 再生音と入力音をミックスして録音することが可能 (オーバーダビング機能)
- オーディオ CDからSDカードにコピー可能 (WAV形式、MP3形式) (BB-1000CDのみ)
- SDカードのファイルをオーディオCDにすることが可能 (BB-1000CDのみ)
- オーディオCDの複製が可能 (BB-1000CDのみ)
- 付属の専用ACアダプター (TASCAM PS-1225L) の他、単3形電池8本でも駆動可能
- リモートコントロールユニット (RC-BB1000) 付属
- 2つの外部マイク入力端子 (XLR端子、コンデンサーマイク用48Vファントム電源付き)
- 外部ライン入力端子 (RCAピンジャック、ステレオ)
- 外部ライン出力端子 (RCAピンジャック、ステレオ)
- 外部マイクの音をスピーカーから出力することが可能

BB-1000CDとBB-800の違い

BB-1000CDは、BB-800にCDレコーダー機能を追加したモデルです。これに伴い、BB-1000CDにはCDとSDを切り換える**CD [CD]** キー、**SD [SDカード]** キーと、CDの**EJECT [CD取出し]** キーが追加されています。

BB-1000CDはCDへの記録に加えて、CD・SDカード間のダビング、オーディオCDのバックアップが可能となっています。

本製品の構成

本製品の構成は以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう、慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は後日輸送するときのために保管しておいてください。付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

● 本体	x 1
● ACアダプター (PS-1225L)	x 1
● ACアダプター用電源コード	x 1
● ワイヤレスリモコン (RC-BB1000)	x 1
● リモコン用ボタン電池 (CR2025)	x 1
● 日本語パネルシート	x 1
● 保証書	x 1
● 取扱説明書 (本書)	x 1

注意

本機には、必ず付属の専用ACアダプター (TASCAM PS-1225L) と電源コードをご使用ください。また、付属のACアダプターと電源コードを他の機器に使用しないでください。故障、火災、感電の原因となります。

本書の表記

本書では以下のような表記を使います。

- BB-1000CDにのみに対応している内容を (BB-1000CDのみ) と表記します。
- 「SDメモリーカード」のことを「SDカード」と表記します。
- 本機および外部機器のキー/端子、画面に表示されるメッセージなど「**MENU** 【メニュー】 キー」のように太字で表記します。
- 日本語パネルシートに記載されている各つまみ、キーの名前を「**[入力選択]**」のように表記します。「**INPUT** 【入力選択]」と表記します。
- ディスプレーに表示される文字を“**REPEAT**”のように“**_**”で括って表記します。
- 「CD-DA」形式のことを「オーディオCD」形式と表記する場合があります。またオーディオCD形式のトラックを記録したCDを「オーディオCD」と表記する場合があります。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

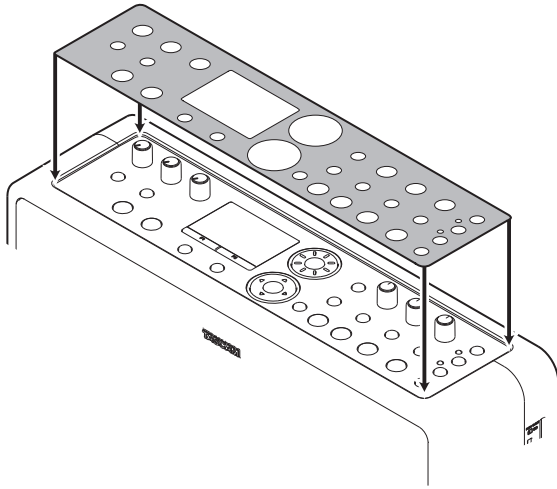
補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、録音したデータが失われたりする可能性がある場合に記載します。

日本語パネルシートについて

付属の日本語パネルシートを本機のトップパネルに置くことで、本機つまみやキーの名前を日本語にすることができます。



知的財産権に関して

● TASCAMは、ティアック株式会社の登録商標です。

● SDHCロゴは商標です。



● Supply of this product does not convey a license nor imply any right to distribute MPEG Layer-3 compliant content created with this product in revenue-generating broadcast systems (terrestrial, satellite, cable and/or other distribution channels) , streaming applications (via Internet, intranets and/or other networks) , other content distribution systems (pay-audio or audio-on-demand applications and the like) or on physical media (compact discs, digital versatile discs, semiconductor chips, hard drives, memory cards and the like) . An independent license for such use is required. For details, please visit <http://mp3licensing.com>.

● MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.

● その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

ここに記載されております製品に関する情報、諸データは、あくまで一例を示すものであり、これらに関します第三者の知的財産権、およびその他の権利に対して、権利侵害がないことの保証を示すものではございません。従いまして、上記第三者の知的財産権の侵害の責任、又は、これらの製品の使用により発生する責任につきましては、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

第三者の著作物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。

弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負致しません。

設置上の注意

- 本製品の動作保証温度は摂氏5度～35度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質低下の原因、または故障の原因となります。
 - 振動の多い場所や不安定な場所。
 - 窓際などの直射日光が当たる場所。
 - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所。
 - 極端に温度が低い場所。
 - 湿気が多い場所や風通しが悪い場所。
- 本機の近くにパワー・アンプなどの大型トランスを持つ機器がある場合にハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くで本機を動作させると、テレビ画面に色むらが出たり、ラジオからの雑音が出ることがあります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発信時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。
- 製品をうつぶせ、もしくは横向きにおいた場合にはCDの録音再生が正常にできない可能性があります。操作面が上になるように設置してください。

結露について

本製品を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは約1～2時間放置した後、電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコール等で拭かないでください。表面を痛めたり色落ちさせる原因となります。

SDカードについて

本機ではSDカードを使って記録や再生を行います。使用できるカードは、64MB～2GBのSDカード、および4GB～32GBのSDHCカードです。TASCAMのウェブサイト (<http://www.tascam.jp/>) には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されていますので、ご参照ください。もしくは、タスカムカスタマーサポートまでお問い合わせください。

取り扱い上の注意

SDカードは精密にできています。カードやスロットの破損を防ぐため、取り扱いにあたって以下の点をご注意ください。

- 極端に温度の高いあるいは低い場所に放置しないこと。
- 極端に湿度の高い場所に放置しないこと。
- 濡らさないこと。
- 上に物を乗せたり、ねじ曲げたりしないこと。
- 衝撃を与えないこと。

CD (コンパクトディスク) について

BB-1000CDのCDデッキはCD-R/CD-RWディスクにCD-DAフォーマットで音声を録音 / 再生することができます。

取り扱い上の注意

- 録音には以下のマークがあるコンパクトディスクをお使いください。

CD-R

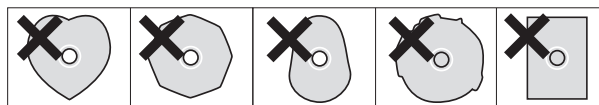


CD-RW



- ディスクは、必ずレーベル面を手前に向けて挿入してください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながらか、ディスクの外周部分を手で挟むように持ってください。
- 信号記録面（レーベルがない面）には触れないでください。指紋や脂などが付着していると、録音 / 再生するときにエラーの原因になることがあります。
- 信号記録面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布を使って中心から外側に向かって軽く拭いてください。ディスクの汚れは音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。

- ディスクの清掃に、レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの化学薬品を使用することは絶対お止めください。表面が変質して再生不能になる恐れがあります。
- ディスクにラベルなどを貼ることはおやめください。盤面にセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本製品にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因になります。
- ヒビが入ったディスクは使用しないでください。
- ハート形や名刺形、八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因になりますので使用しないでください。



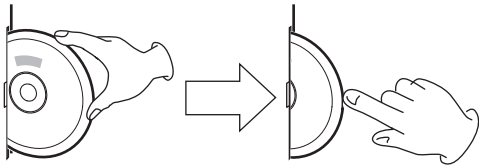
- いくつかのレコード会社より「コピーコントロールCD」と銘打った著作権保護を目的としたディスクが販売されています。これらはCD規格に則っていないディスクも存在するため、本機で再生できない場合があります。

CD-RとCD-RWディスク

CD-Rディスクには、一度だけしか記録できません。記録したトラック（曲）を消去することもできません。ただし、ファイナライズ処理を施していないディスクで、ディスクの記録可能時間が残っている場合は、追加記録が行えます。記録が終わったCD-Rは、ファイナライズ処理を施すことで、一般のCDプレーヤーでも再生できるようになります（一部のCDプレーヤーでは再生できないことがあります）。

CD-RWディスクは、記録可能容量を使い終わった場合でも、記録した曲を消去すれば繰り返し使用することができます。ただし、消去できるのは全曲または最後の曲に限られ、途中の曲だけを消去することはできません。CD-RWは、ファイナライズ処理を施しても、CD-RWに対応したCDプレーヤーでしか再生できません。

スロットインタイプのディスクの挿入



1. 本体を正面に置き、図のようにレーベル面を手前にしてディスクの側面を持って、途中までディスクを挿入してください。
2. さらにディスクを押ししていくと、ディスクが挿入口に隠れる直前で自動的に引き込まれます。

ディスクがうまく入らないとき

ディスクが引っかかる等、押しにくいときは、無理に押し込まずに一度ディスクを抜いて ▲ EJECT [CD取出し] キーを押してから、再度入れなおしてください。(無理に押し込むと、ディスクを傷つけたり本機を破損する場合があります。)

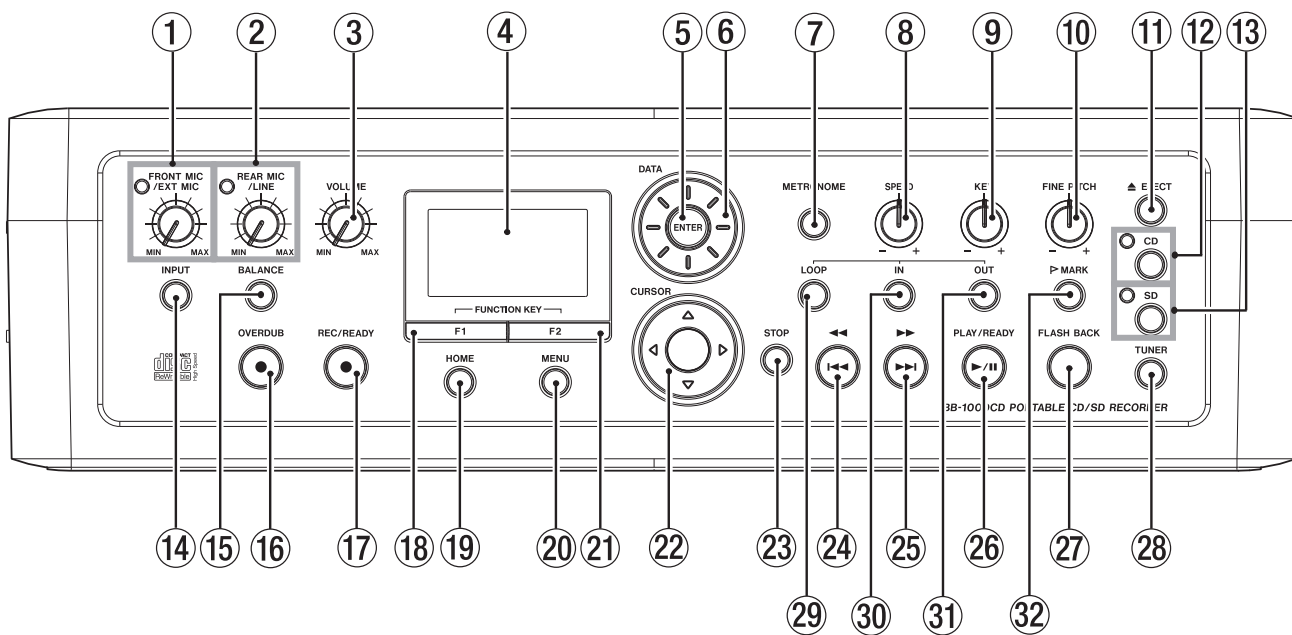
アフターサービス

- この製品には保証書を別途添付しております。保証書は所定事項を記入してお渡ししておりますので、大切に保管してください。
- 保証期間はご購入日より1年です。保証期間中は記載内容によりティアック修理センターが修理いたします。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、ご購入の販売店またはティアック修理センターなどにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客さまのご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生し修理を依頼される場合は、使用を停止し、必ず電源プラグを抜いてから次の事項を確認の上、ご購入店またはティアック修理センターまでご連絡ください。
 なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音などの補償）の責については、ご容赦ください。
 - 型名、型番 (BB-1000CDまたはBB-800)
 - 製造番号 (Serial No.)
 - 故障の症状 (できるだけ詳しく)
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、巻末をご参照ください。

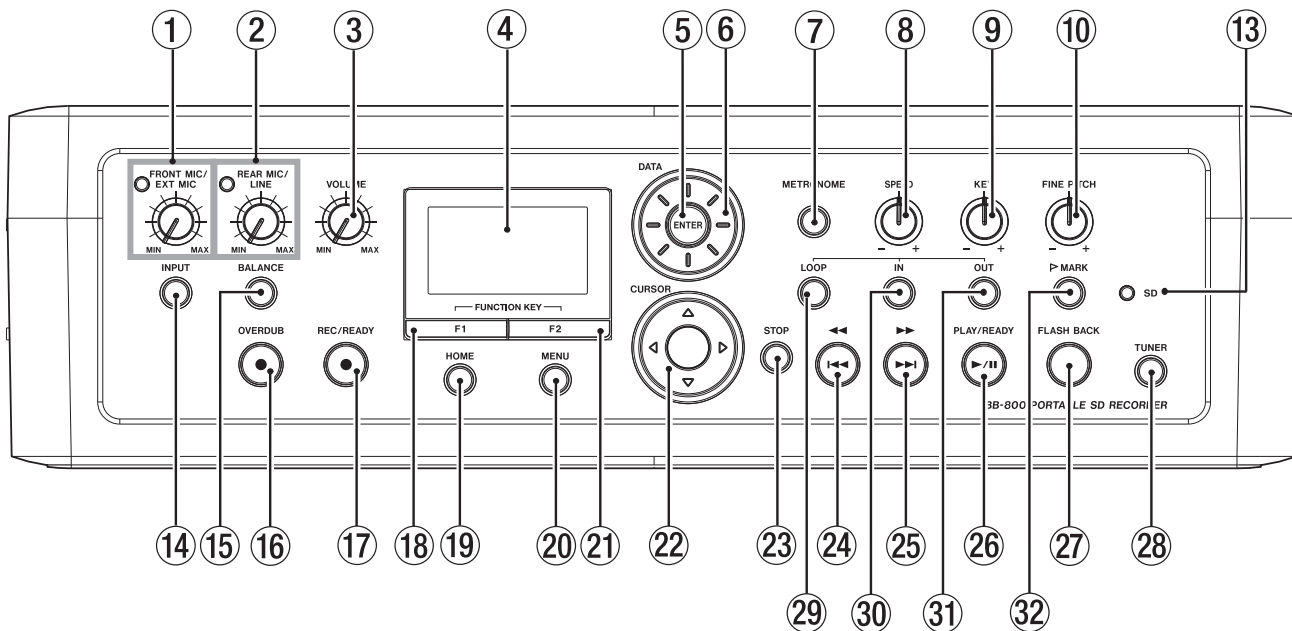
第2章 各部の名称と働き

トップパネル

BB-1000CD



BB-800



- ① **FRONT MIC/EXT MIC** 【前面マイク/外部マイク】 つまみ / オーバーロードインジケータ
FRONT MICまたはEXT MICの入力レベルを調節します。入力が大き過ぎると、左上にあるインジケータが点灯します。
- ② **REAR MIC/LINE** 【背面マイク/ライン入力】 つまみ / オーバーロードインジケータ
REAR MICまたはLINE INの入力レベルを調節します。入力が大き過ぎると、左上にあるインジケータが点灯します。
- ③ **VOLUME** 【音量】 つまみ
スピーカーの音量や、ヘッドホン・ラインアウトの出力レベルを調節します。
- ④ **ディスプレイ**
各種情報を表示します。
- ⑤ **ENTER** キー
設定画面での操作時、選択を確定するときに使います。
- ⑥ **DATA** 【データ】 ホイール
設定画面での操作時、項目を選択したり設定値の変更をするときに使います。
ホーム画面表示時、DATA【データ】ホイールを使って曲の再生位置を移動することができます。
- ⑦ **METRONOME** 【メトロノーム】 キー
メトロノーム (“METRONOME”) 画面を表示します。
“METRONOME” 画面表示中にこのキーを押すとホーム画面に戻ります (→ 40ページ「メトロノームを使う」)。
- ⑧ **SPEED** 【スピード】 つまみ
再生スピードを調節するときに使います (→ 40ページ「CD/SDに合わせて練習する」)。
- ⑨ **KEY** 【キー】 つまみ
再生する音の音程を調整するときに使います (→ 40ページ「CD/SDに合わせて練習する」)。
- ⑩ **FINE PITCH** 【キー微調整】 つまみ
再生する音の音程を微調整するときに使います (→ 40ページ「CD/SDに合わせて練習する」)。
- ⑪ **▲EJECT** 【CD取出し】 キー (BB-1000CDのみ)
ディスクを取り出します。
- ⑫ **CD** 【CD】 キー / **CD** 【CD】 インジケータ (BB-1000CDのみ)
停止中にホーム画面でこのキーを押すと、録音・再生メディアがCDに切り換わります。
録音・再生メディアがCDのとき、インジケータが点灯します。
- ⑬ **SD** 【SDカード】 キー (BB-1000CDのみ) / **SD** 【SDカード】 インジケータ
停止中にホーム画面でこのキーを押すと、録音・再生メディアがSDカードに切り換わります。
録音・再生メディアがSDカードのとき、インジケータが点灯します。
- ⑭ **INPUT** 【入力選択】 キー
入力設定 (“INPUT”) 画面を表示します。
“INPUT” 画面表示中にこのキーを押すとホーム画面に戻ります。
- ⑮ **BALANCE** 【バランス】 キー
入力バランス設定 (“BALANCE”) 画面を表示します。
“BALANCE” 画面表示中にこのキーを押すとホーム画面に戻ります。
- ⑯ **OVERDUB** 【重ね録音】 [●] キー
CDやSDカードから再生しながら、それに入力信号をミックスして録音 (オーバーダビング) するときに押します。
このキーを押すとオーバーダビングの録音待機状態になり、**OVERDUB** 【重ね録音】 キーが点灯し、**REC/READY** 【録音 / 待機】 キーが点滅します。
- ⑰ **REC/READY** 【録音 / 待機】 [●] キー
停止中に押すと、録音待機状態になり、キーが点滅します。
録音待機中にこのキーを押すと、録音を開始します。録音中はキーが点灯します。
録音中に押すと、録音待機状態になります。
- ⑱ **F1** キー
選択時の確認や手順を戻すなど、状況によって様々な働きをします。F1キーの機能は、ディスプレイ下段の左に表示されます。
- ⑲ **HOME** 【ホーム】 キー
各種設定画面の表示中にこのキーを押すと、ホーム画面に戻ります。
- ⑳ **MENU** 【メニュー】 キー
ホーム画面表示中にこのキーを押すとメニューリスト (“MENU” 画面) を表示します。
各種設定画面の表示中にこのキーを押すと、“MENU” 画面に戻ります。
- ㉑ **F2** キー
選択時の確認や手順を進めるなど、状況によって様々な働きをします。F2キーの機能は、ディスプレイ下段の右に表示されます。
- ㉒ **CURSOR** 【カーソル】 [▲/▼/◀/▶] キー
各種設定画面で、カーソル (反転表示) を動かします。
- ㉓ **STOP** 【停止】 キー
再生中に押すと、再生が停止して曲の先頭に移動します。
- ㉔ **◀◀/▶▶** キー
曲の先頭から1秒以内に押すと前の曲の先頭にスキップします。
曲の先頭から1秒以後に押すとその曲の先頭にスキップします。
長く押すと早戻しを行います。
ループ再生中にこのキーを押すと、始点-終点間の間隔はそのまま、現在の始点の位置に終点が移動します。
- ㉕ **▶▶/▶▶|** キー
短く押すと次の曲にスキップします。
長く押すと早送りを行います。
ループ再生中に押すと、始点-終点間の間隔はそのまま、現在の終点の位置に始点が移動します。

第2章 各部の名称と働き

②6 PLAY/READY 【再生/一時停止】 [▶/||] キー

ホーム画面表示中、停止中にこのキーを押すと再生が始まります。

再生中に押すと、一時停止します。

②7 FLASH BACK 【フラッシュバック】 キー

再生中にこのキーを押すと、あらかじめ設定した秒数だけ手前に戻って再生を行います。戻る秒数の設定は“SET UP”画面で行います（→37ページ「少しだけ戻す（FLASH BACK）」）。

②8 TUNER 【チューナー】 キー

チューナー（“TUNER”）画面を表示します。楽器のチューニングを行うときに使います（→39ページ「楽器のチューニングをする」）。

“TUNER”画面表示中にこのキーを押すとホーム画面に戻ります。

②9 LOOP 【ループ】 キー

ループ再生やリピート再生機能のオン/オフを行います。

始点、終点が設定されている場合はループ再生のオン/オフを行います（→38ページ「一定区間だけ繰り返して再生する（ループ再生）」）。

始点、終点が設定されていない場合はリピート再生のオン/オフを行います（→38ページ「曲をリピート再生する（リピート再生）」）。

このキーを押しながら IN 【イン】 / OUT 【アウト】 / MARK 【マーク】 キーを押すと、設定されている始点/終点/マークを破棄します。

③0 IN 【イン】 キー

希望の区間をループ再生させるときの「始点」を設定します。

LOOP 【ループ】 キーを押しながらこのキーを押すと、既に設定されている始点を破棄します（→38ページ「一定区間だけ繰り返して再生する（ループ再生）」）。

③1 OUT 【アウト】 キー

希望の区間をループ再生させるときの「終点」を設定します。

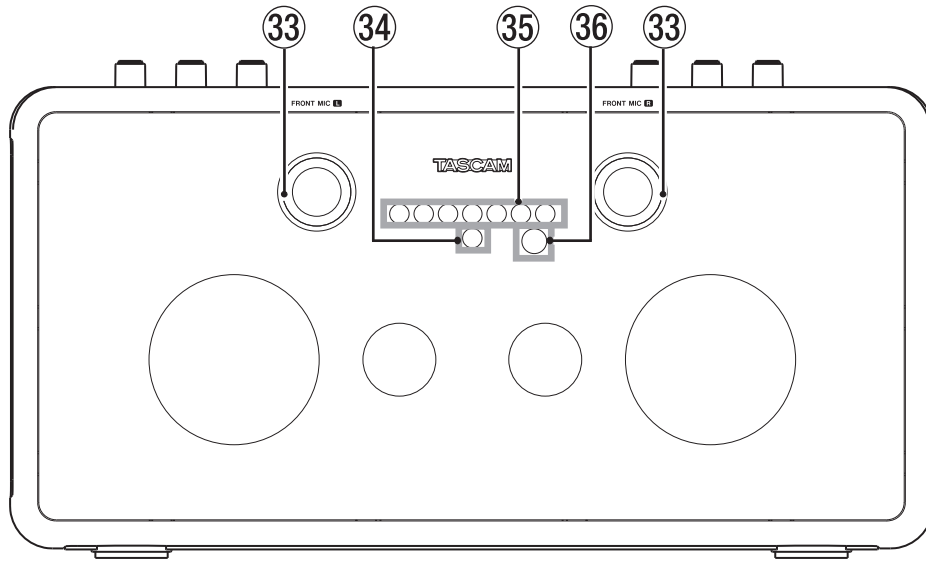
LOOP 【ループ】 キーを押しながらこのキーを押すと、既に設定されている終点を破棄します（→38ページ「一定区間だけ繰り返して再生する（ループ再生）」）。

③2 MARK 【マーク】 キー

曲内の希望の位置にマークポイントを設定します。

LOOP 【ループ】 キーを押しながらこのキーを押すと、ホーム画面で表示されているマークを破棄します（→38ページ「曲内の希望の位置にマークポイントを設定する」）。

フロントパネル



③③ FRONT MIC L/R

内蔵のステレオマイクです。
L側はチューナー用マイクとしても使用します。

③④ 電源インジケータ

電源が入ると点灯します。

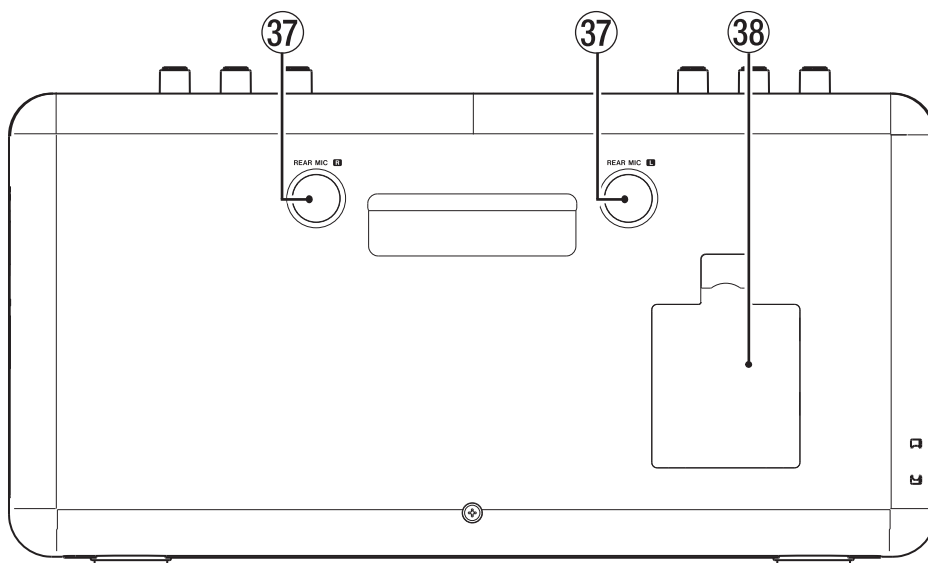
③⑤ ボリューム / 再生 / 録音インジケータ

ボリュームを調節するとき、緑の光の数で音量を示します。
再生中は中央のインジケータが緑に点灯します。
録音中は中央のインジケータが赤に点灯します。
メトロノームの動作中、動きに合わせて緑の光が左右に移動します。
クロマチックチューナー動作中、検出音からのずれを表示します。

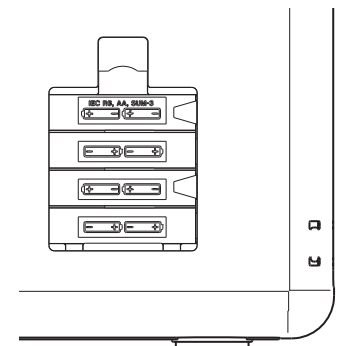
③⑥ リモコン受光部

付属のリモコン (RC-BB1000) の信号を受信します。リモコンを使用するときは、リモコンの先端をこちらに向けて操作してください。

リアパネル



電池ケースカバーを外したところ



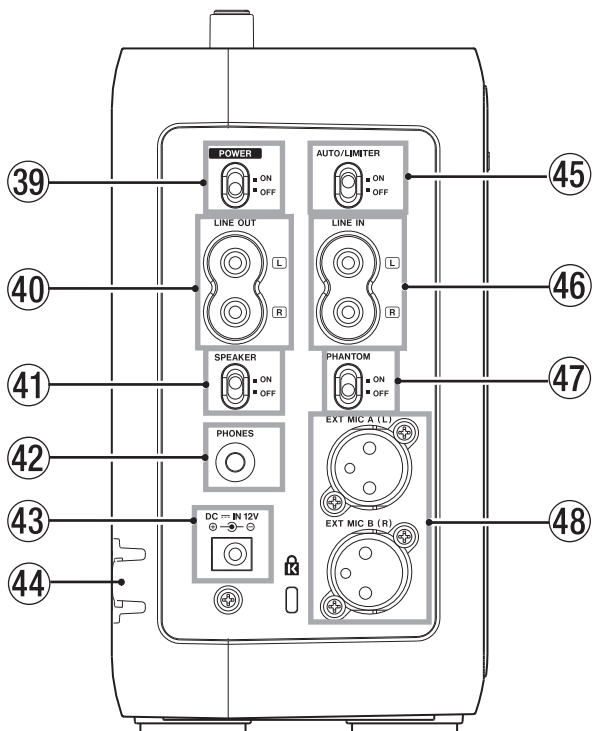
③⑦ REAR MIC L/R

内蔵のステレオマイクです。

③⑧ 電池ケース

単3形電池8本を収納します。

左サイドパネル



③⑨ POWER スイッチ

電源を ON/OFF します。

④⑩ LINE OUT 端子

スピーカー付の電子楽器 / オーディオシステム / アンプ付きスピーカーなどを接続します。

④① SPEAKER スイッチ

本機のスピーカー出力の ON/OFF を設定します。

④② PHONES 端子

ヘッドホンを接続します。

④③ DC IN 12V 端子

付属の AC アダプター (TASCAM PS-1225L) を接続します。

④④ コードホルダー

コードを引っ掛けてプラグの抜け落ちを防止します。

④⑤ AUTO/LIMITER

リミッター機能の ON/OFF を切り換えます。

④⑥ LINE IN 端子

電子楽器や外部オーディオ機器 (CD プレーヤーなど) のライン出力端子と接続します。

④⑦ PHANTOM スイッチ

EXT MIC 端子につないだコンデンサーマイクに電源 (+48V) を供給する場合に ON にします。

注意

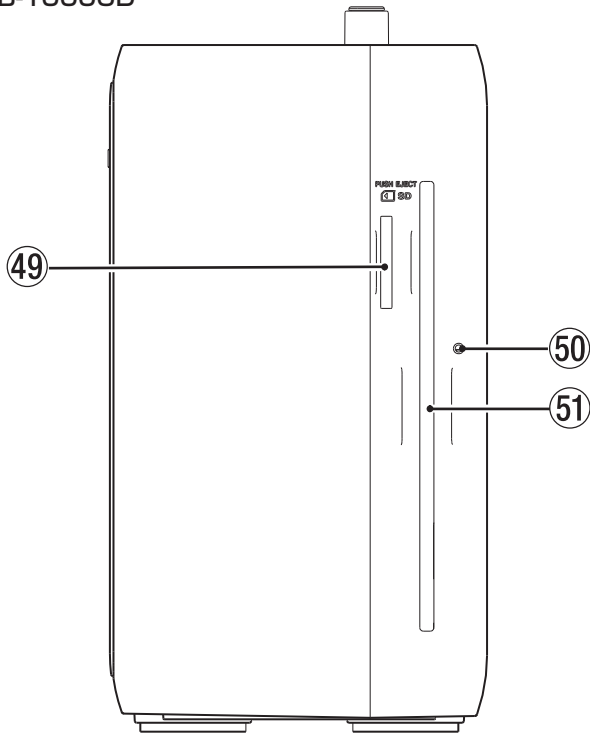
PHANTOM スイッチを ON にしたままで、マイクの抜き差しをしないでください。

④⑧ EXT MIC A (L) / EXT MIC B (R) 端子

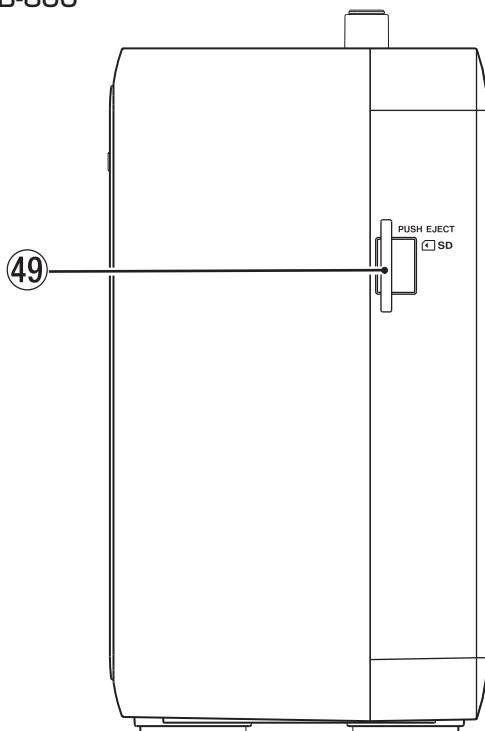
XLR 端子のマイクを接続します (1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)。

右サイドパネル

BB-1000CD



BB-800



④⑨ SD カードスロット

SDカードを挿入します。

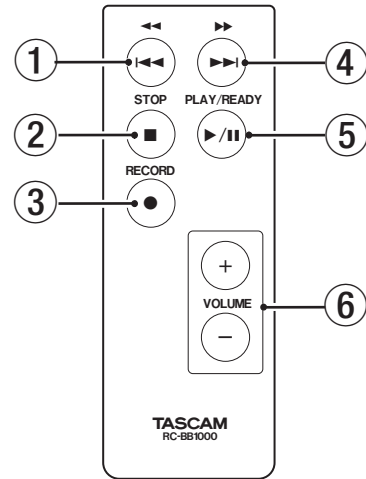
⑤⑩ ディスク強制排出用穴 (BB-1000CD のみ)

CDドライブが故障してディスクを取り出せないとときに使用します (→ 23ページ「ディスクの強制排出」)。

⑤⑪ CD スロット (BB-1000CD のみ)

ディスクを挿入します。

リモートコントロールユニット
(RC-BB1000)



① ◀◀/▶▶ キー

曲の先頭から1秒以内に押すと前の曲の先頭にスキップします。
曲の先頭から1秒以後に押すとその曲の先頭にスキップします。
長く押すと早戻しを行います。
ループ再生中に押すと、始点—終点間の間隔はそのまま、現在の始点の位置に終点が移動します。

② STOP [■] キー

再生中に押すと、再生が停止して曲の先頭に移動します。

③ RECORD [●] キー

停止中に押すと、録音待機になります。
録音待機中に押すと、録音を開始します。

④ ▶▶/▶▶▶ キー

短く押すと次の曲にスキップします。
長く押すと早送りを行います。
ループ再生中に押すと、始点—終点間の間隔はそのまま、現在の終点の位置に始点が移動します。

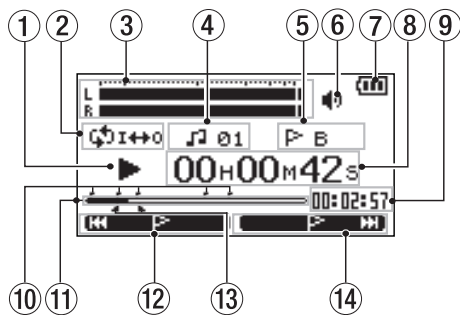
⑤ PLAY/READY [▶/||] キー

ホーム画面表示中、停止中に押すと再生が始まります。
再生中に押すと、その位置で停止します。

⑥ VOLUME [+ / -] キー

音量を調節します。

ホーム画面



① レコーダーの動作状態をアイコン表示します。

- ▶ : 再生中
- ⏸ : 曲の途中で停止中
- : 曲の先頭で停止中
- ▶▶ : 早送り中
- ◀◀ : 早戻し中
- ▶▶▶ : 次の曲の先頭にスキップ
- ◀◀◀ : 現在または手前の曲の先頭にスキップ
- ⏏ : 分割モード

② ループ/リピート設定状態

状況に応じて以下のアイコンを表示します。

- 🔄 : リピート再生中
- 🔄I++0 : ループ再生中

③ レベルメーター

再生中は、曲の信号のレベルを表示します。
レベルが大き過ぎると、メーターの右端がしばらく点灯します。

④ 曲番号

再生中の曲番号を表示します。

⑤ マーク名

現在再生中の位置より手前にあるマークのうち、もっとも近いマーク名を表示します。

⑥ 出力状態

現在の出力状態を表示します。

- 🔊 : 内蔵スピーカーオン
- 🔊 : 内蔵スピーカーオフ
- 🎧 : ヘッドホン接続中

⑦ 電源

電池駆動時は電池アイコンを表示します。電池残量に応じた目盛りを表示します (🔋、🔋、🔋)。

目盛り表示がなくなると (🔋)、電池切れのためにまもなく電源がオフになります。

ACアダプター接続時は“AC🔌”が表示されます。

⑧ 経過時間

再生中の曲の経過時間 (時:分:秒) を表示します。

⑨ 残量時間

再生中の曲の残量時間 (時:分:秒) を表示します。

⑩ マーク位置の指定状況

マーク位置の設定状況を表示します。

再生位置表示バー上のマーク位置に“r”を表示します。

⑪ 再生位置表示バー

現在の再生位置をバー表示します。再生の経過とともに、左からバーが伸びていきます。

⑫ F1 キー機能

F1 キーのキー機能を表示します。ホーム画面では、F1 キーを押すと、表示中のマークにジャンプします。

⑬ ループの始点/終点指定状況

ループ再生の始点/終点の設定状況を表示します。

始点を設定すると、再生位置表示バー上の該当位置に“|”を表示します。

終点を設定すると、再生位置表示バー上の該当位置に“|”を表示します。

⑭ F2 キー機能

F2 キーのキー機能を表示します。ホーム画面では、F2 キーを押すと、次のマーク位置にジャンプします。

第3章 準備

電源の準備

本機は、付属の専用 AC アダプター (TASCAM PS-1225L) または市販の単3形電池で駆動することができます。

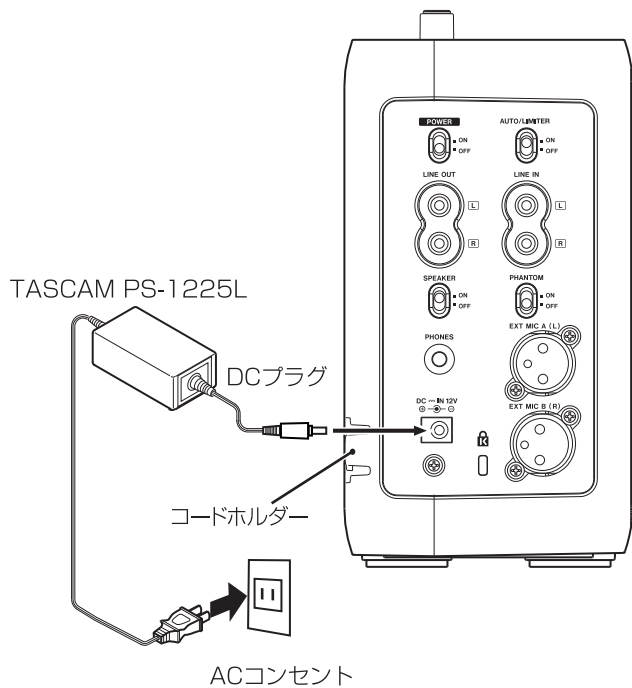
注意

電池駆動時は CD への録音はできません。AC アダプターをご使用ください。

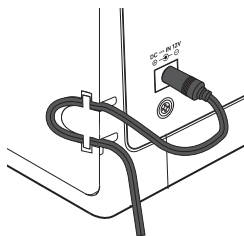
AC アダプターで使用する

あらかじめ本機の電源スイッチが **OFF** になっていることを確認します。

付属の専用 AC アダプター (TASCAM PS-1225L) を使って、以下のように接続します。



本体の左サイドパネルには、ACアダプターのコードを固定するための溝 (コードホルダー) があります。使用中のコード抜けを防ぐため、接続するときはコードホルダーにコードを通してください。

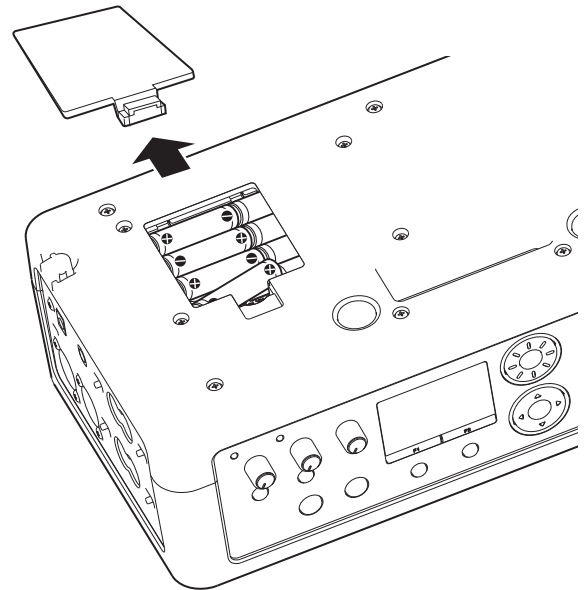


注意

- かならず同梱されている専用 AC アダプター (TASCAM PS-1225L) をお使いください。他の AC アダプターを使用すると故障、発熱、発火などの原因になります。
- コードを無理に溝に押し込めないでください。断線の原因になります。
- AC アダプターをご使用の際は、電池の消耗を防ぐため、乾電池をはずしてください。

電池で使用する

本体裏側の電池ケースカバーを外し、ケースの極性の表示に合わせて、市販の単3形電池を8本入れます。



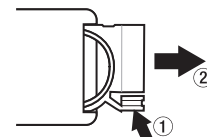
メモ

電池は本機に付属していません。電池はニッケル水素電池、アルカリ乾電池をお奨めします。

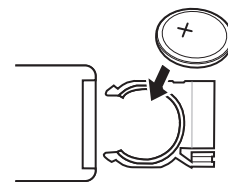
リモコンの準備

電池の入れ方

1. リモコンから電池ホルダーを引き出します。



2. 極性の向きに注意して、コイン形リチウム電池 (CR2025) を電池ホルダーにセットします。



3. リモコンに電池ホルダーをセットします。

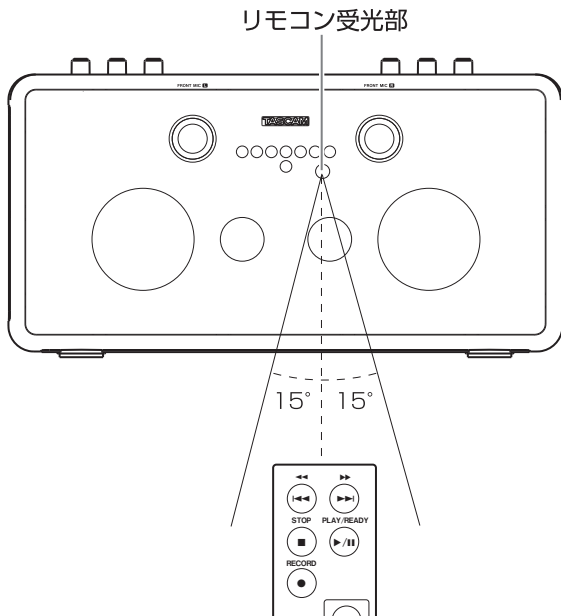
電池の交換時期

操作範囲が狭くなったり、操作キーを押しても動作しない場合は、新しい電池に交換してください。

電池はコイン形リチウム電池 (CR2025) をご使用ください。

リモコン使用上の注意

- 長い間（1ヶ月以上）リモコンを使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
- 赤外線によりコントロールする他の機器を使用時に、本機のリモコンを操作すると、その機器を誤作動させることがあります。
- 本機のリモコン受光部に向けて操作してください。障害物があると、操作できません。



動作距離

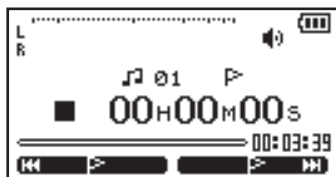
正面：7メートル以内

左右15度以内：4メートル以内

電源を入れる / 切る

電源を入れる

左サイドパネルの **POWER** スイッチを **ON** にします。起動画面が表示された後、ホーム画面を表示します。



電源を切る

POWER スイッチを **OFF** にして、電源を切ります。

注意

CD [CD] インジケーターまたは **SD** [SDカード] インジケーターが点滅しているとき（書き込み中）は、電源を切らないでください。

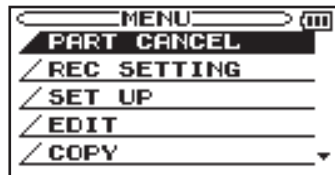
日時を設定する

本機内蔵の時計の現在時刻を設定します。現在時刻を設定すると、SDカードに録音するオーディオファイルに日時を記録することができます。

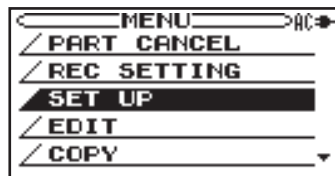
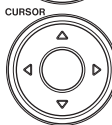
1. **HOME** [ホーム] キーを押してホーム画面を表示します。



2. **MENU** [メニュー] キーを押して“MENU”画面を表示します。

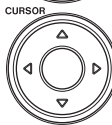
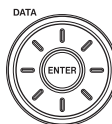


3. **DATA** [データ] ホイールまたは **CURSOR** [カーソル] [▲/▼] キーを使って“SET UP”を反転表示し、**ENTER**キーを押します。



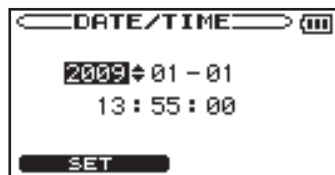
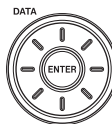
“SET UP”画面を表示します。

4. **CURSOR** [カーソル] [▲/▼]キーを使って“DATE/TIME”項目を反転表示し、**ENTER**キーを押します。



“DATE/TIME”画面を表示します。

5. **DATA** [データ] ホイールを使って値を設定します。**CURSOR** [カーソル] [▲/▼/◀/▶]キーを使ってカーソルを移動します。



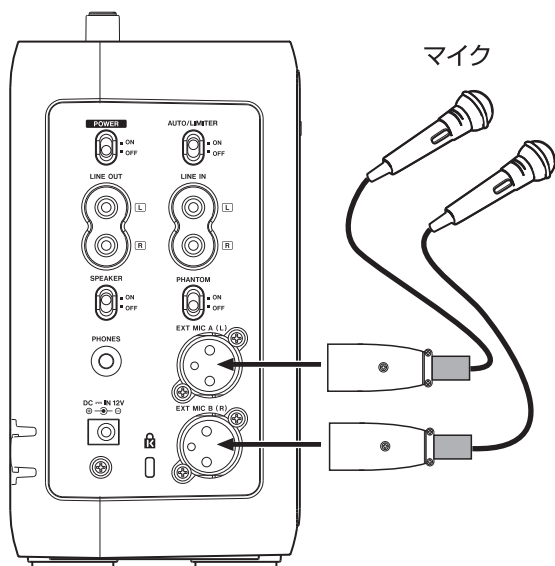
6. 設定後、**F1** キーを押すと、“SET UP”画面に戻り、時計が動き始めます。



マイクを接続する

マイクを使って録音したり、拡声器として使用する場合は、左サイドパネルにある EXT MIC A (L)/EXT MIC B (R) 端子 (XLR 端子) にマイクを接続します。

マイクは接続プラグが XLR 端子のものを使用してください。



注意

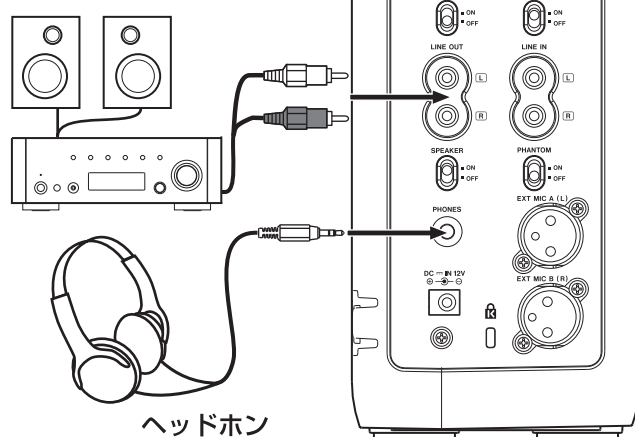
- 電源を必要とするマイク（コンデンサマイクなど）を接続する場合は **PHANTOM** スイッチを **ON** にしてください。それ以外のマイク（ダイナミックマイク）などを接続するときは **OFF** にしてください（ON にすると、マイクが壊れる可能性があります）。詳しくは、マイクの取扱説明書等をご覧ください。
- PHANTOM** スイッチが **ON** の状態のままで、マイクの抜き差しをしないでください。

外部オーディオ機器を接続する

ヘッドホンやアンプ / スピーカーを接続する

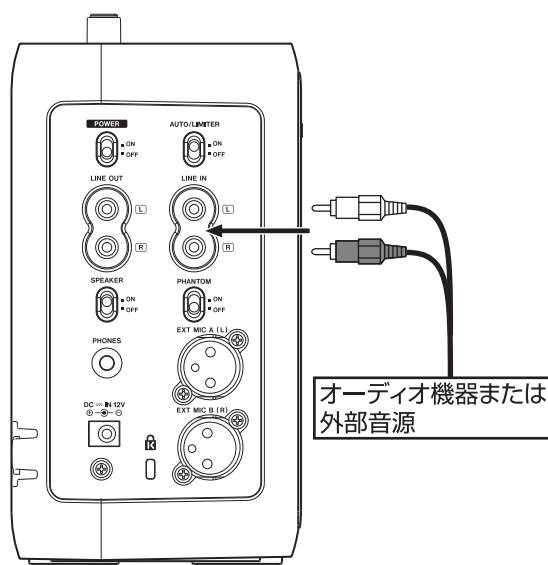
ヘッドホンや、外部スピーカーで音を聞く場合は、**PHONES** 端子にヘッドホン（ステレオミニジャック）、または **LINE OUT** 端子 (RCA 端子) にモニターシステム（アンプ内蔵スピーカー、オーディオシステムなど）を市販の RCA ピンケーブルを使用して接続します。

アンプ付きスピーカーまたはオーディオシステム



本機の入力に外部オーディオ機器を接続する

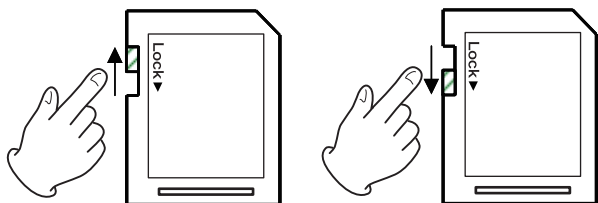
左サイドパネルにある **LINE IN** 端子 (RCA 端子) に外部オーディオ機器の出力を接続します。RCA ピンコードを使用してください。



SDカードをセットする

SDカードのライトプロテクトについて

SDカードにはプロテクト(書き込み防止)スイッチがついています。SDカードが書き込み不可になっている状態で録音をしようとした場合は、「Protected Card」のエラーメッセージが表示されます。



[書き込み可]

[書き込み不可]

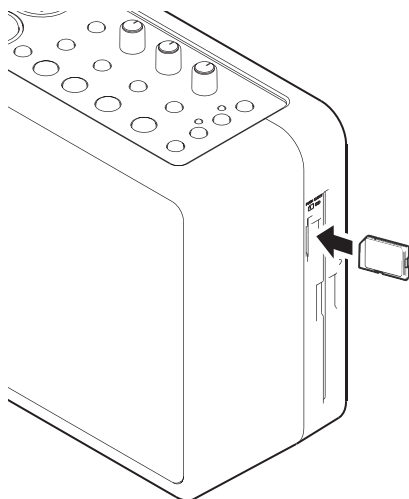
メモ

本機は録音時以外にも、編集時や、マーク設定時に情報をSDカードへ記録します。書き込み不可になっている状態ではこれらの情報の記録ができません。録音、編集、マーク設定を行うときなどは、プロテクトスイッチを書き込み可の状態にしておいてください。

SDカードを挿入する / 取り出す

SDカードを挿入する

SDカードスロットにSDカードを差し込み、カチッと手応えがあるまで押します。



SDカードを取り外すには

差し込まれているカードを押すと手前に出てきます。

メモ

録音 / 再生中やSD【SDカード】インジケータが点滅しているとき(書き込み中)は、SDカードを取り外さないでください。

SDカードをフォーマットする

新しいSDカードを使用する場合や、他の機器やパソコンでフォーマットされたSDカードを使用する場合は、本機でSDカードをフォーマットすることをお勧めします。他の機器やパソコンでフォーマットされたSDカードを使用した場合は、録音時にエラーが発生することがあります。

注意

- フォーマットを実行すると他の機器で記録されたデータもすべて消去されて復元できなくなります。
- フォーマットの実行は、専用ACアダプター(TASCAM PS-1225L)を使用するか、電池の残量が十分な状態で行ってください。フォーマット中に電池が切れると、正常なフォーマットができないことがあります。

1. SDカードをセットします。

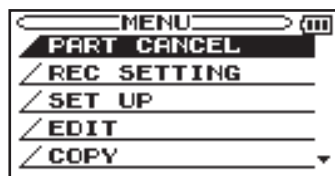
2. HOME【ホーム】キーを押してホーム画面を表示します。



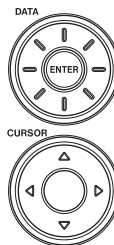
3. SDキーを押します(BB-1000CDのみ)。このときSDキーの左上のインジケータが点灯します。



4. MENU【メニュー】キーを押して「MENU」画面を表示します。

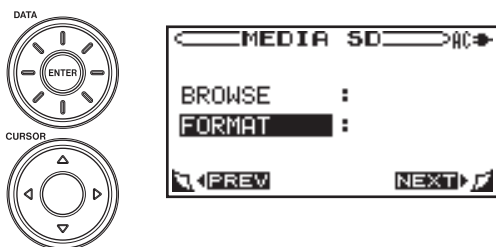


5. DATA【データ】ホイールまたは、CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って「MEDIA」を反転表示し、ENTERキーを押します。



「MEDIA SD」画面が表示されます。

6. DATA [データ] ホイールまたは、CURSOR [カーソル] [▲/▼]キーを使って“FORMAT”を反転表示し、ENTERキーを押します。



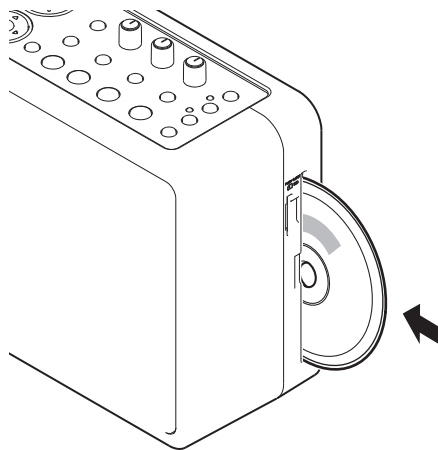
7. 以下の確認画面が表示されます。F1キーを押すとフォーマットが始まります。フォーマットを終了すると、“MEDIA SD”画面に戻ります。



CDをセットする (BB-1000CDのみ)

ディスクを挿入する

1. 図のようにレーベル面を手前にして、途中までディスクを挿入してください。



2. さらにディスクを押していくと、ディスクが挿入口に隠れる直前で自動的に引き込まれます。

注意

- 電源の入っていない状態ではディスクは入りません。
- ディスクが引っかかる等、押しにくいときは、無理に押し込まずに一度ディスクを抜いて▲EJECT【CD取出し】キーを押してから、入れ直してください（無理に押し込むと、ディスクを傷つけたり本機を破損する場合があります。）。
- オーディオ CD以外のディスクを挿入したり、ディスクを裏返して挿入した場合は、CD選択時に自動的に排出されます。

ディスクを取り出すには

▲EJECT【CD取出し】キーを押します。

ディスクが途中まで排出されるので、ディスクの側面を持って引き抜きます。

注意

- 電源の入っていない状態では▲EJECT【CD取出し】キーは動作しません。
- ディスプレーがホーム画面のときのみディスクを取り出すことができます。
- SDカードの再生中は、ディスクを取り出すことができません。

メモ

ファイナライズされていないCD-R/RWディスクを取り出す際はファイナライズを行うかどうかの選択画面を表示します。（→33ページ「CD-R/RWディスクを他のCDプレーヤーで再生できるようにする（BB-1000CDのみ）」）

ディスクの強制排出

CDドライブの故障等で▲EJECT【CD取出し】キーを押してもディスクが排出されない場合は、強制排出用の穴を使用しディスクを取り出すことができます。

強制排出時は本体の電源を切り、以下の操作を行ってください。

1. クリップなどを伸ばした細長いピンを用意してください。
2. 強制排出用の穴にピンを差し込み、何回か奥に押し込みます。
3. ディスクが半分まで出てきたら手でディスクを引き出します。

注意

ディスクの強制排出は、電源の入っている状態では絶対に行わないでください。

第4章 録音する

SDカードに録音するかCDに録音するか選ぶ (BB-1000CDのみ)

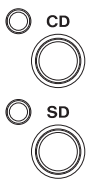
STOP [停止] キーを押してレコーダーを停止してください。

1. HOME [ホーム] キーを押してホーム画面を表示します。



2. SDカードに録音する場合は、SD [SDカード] キーを押します。このとき、SD [SDカード] キーの左上のインジケータが点灯します。

CDに録音する場合は、CD [CD] キーを押します。このとき、CD [CD] キーの左上のインジケータが点灯します。



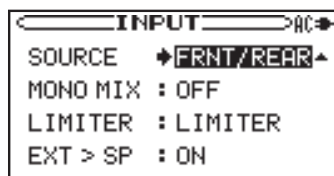
注意

電池駆動時は、CDへの録音はできません。CDに録音する場合は、専用ACアダプター(TASCAM PS-1225L)をご使用ください。

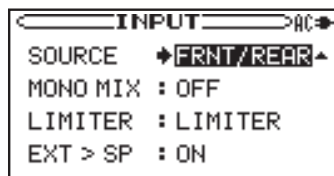
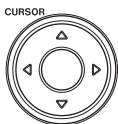
入力を選択する

本機の内蔵マイクを使って録音する

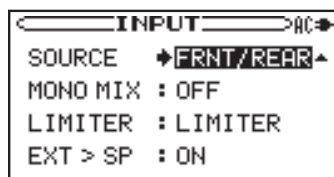
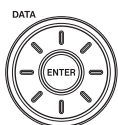
1. INPUT [入力選択] キーを押して、“INPUT” 画面を表示します。



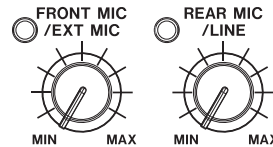
2. CURSOR [カーソル] [▲/▼]キーを使って“SOURCE”項目を反転表示します。



3. DATA [データ] ホイールを使って“FRNT/REAR”を選択します。



4. FRONT MIC/EXT MIC [前面マイク/外部マイク] つまみ、および、REAR MIC/LINE [背面マイク/ライン入力] つまみを使って、本機の周囲360°の音の録音が可能です。

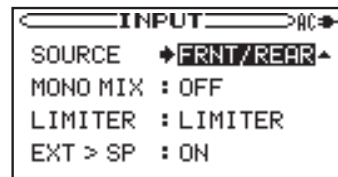


メモ

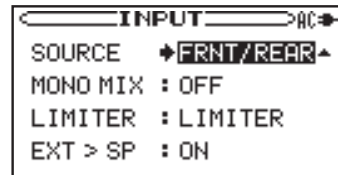
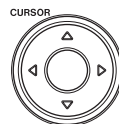
このとき、本機のスピーカーから音は出ません。

外部マイクを使って録音する

1. INPUT [入力選択] キーを押して、“INPUT” 画面を表示します。



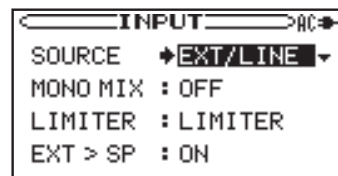
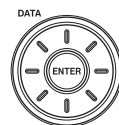
2. CURSOR [カーソル] [▲/▼]キーを使って“SOURCE”項目を反転表示します。



3. DATA [データ] ホイールを使って“EXT/REAR”または“EXT/LINE”を選択します。

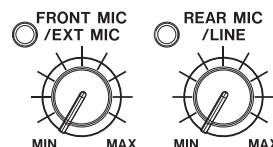
“EXT/REAR”を選択した場合は、外部マイクと本機のリアマイクも同時に使うことができます。

“EXT/LINE”を選択した場合は、外部マイクと、LINE IN端子に接続した外部機器からの入力も同時に録音することができます。

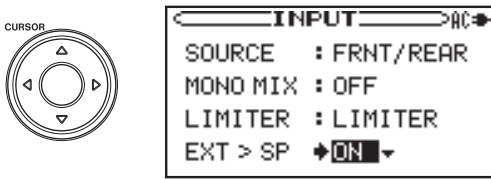


4. FRONT MIC/EXT MIC [前面マイク/外部マイク] つまみを使って、外部マイクの入力レベルを調節します。

背面マイクまたはライン入力端子からの入力も同時に録音する場合は、REAR MIC/LINE [背面マイク/ライン入力] つまみを使って、背面マイクまたはライン入力の入力レベルを調節します。REAR MIC/LINE [背面マイク/ライン入力] つまみを左いっぱいに戻すと、外部マイクからの音だけを録音することができます。



5. CURSOR [カーソル] [▲/▼]キーを使って“EXT > SP”項目を反転表示します。



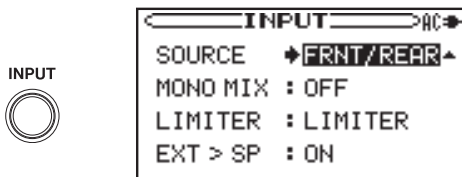
6. “ON”にするとスピーカーから外部マイクの音が出ます。“OFF”にするとスピーカーから外部マイクの音は出ません。

ヒント

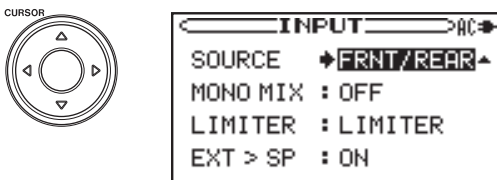
スピーカーから外部マイクの音を出す設定にすると、ハウリングを起こす場合があります。外部マイクを使って録音する場合は、スピーカーから外部マイクの音が出ない設定にし、ヘッドホンを使ってモニターすることをお勧めします。

ライン入力を使って録音する

1. INPUT [入力選択] キーを押して、“INPUT”画面を表示します。



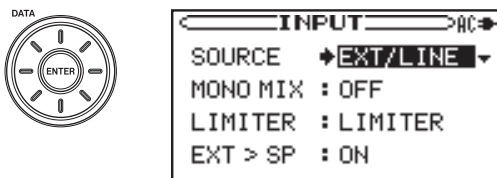
2. CURSOR [カーソル] [▲/▼]キーを使って“SOURCE”項目を反転表示します。



3. DATA [データ] ホイールを使って“FRNT/LINE”または“EXT/LINE”を選択します。

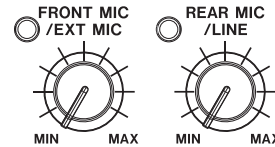
“FRNT/LINE”を選択した場合は、ライン入力と本機のフロントマイクも同時に使用することができます。

“EXT/LINE”を選択した場合は、ライン入力と外部マイクからの入力を同時に録音することができます。



4. REAR MIC/LINE [背面マイク / ライン入力] つまみを使って、ライン入力の録音レベルを調節します。

前面マイクまたは外部マイクからの入力も同時に録音する場合は、FRONT MIC/EXT MIC [前面マイク / 外部マイク] つまみを使って、フロントマイクまたは、外部マイクの録音レベルを調節します。FRONT MIC/EXT MIC [前面マイク / 外部マイク] つまみを左いっぱいに戻すと、ライン入力からの音だけを録音することができます。



録音するファイル形式を設定する

SDカードに録音する場合

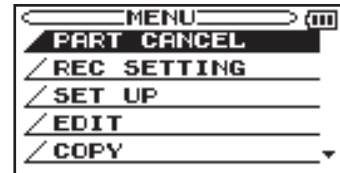
録音するファイル形式は、“WAV”、“MP3 (low)”、“MP3 (normal)”、“MP3 (high)”の4種類の中から選びます。録音できる時間は“WAV” < “MP3 (high)” < “MP3 (normal)” < “MP3 (low)”の順で長くなりますが、音質は低下します。

STOPキーを押してレコーダーを停止してください。

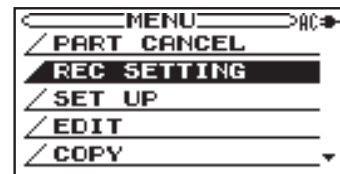
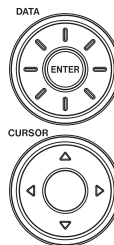
1. HOME [ホーム] キーを押してホーム画面を表示します。



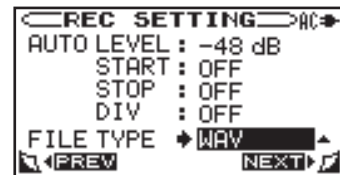
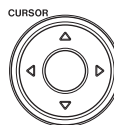
2. MENU [メニュー] キーを押して“MENU”画面を表示します。



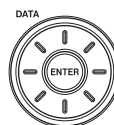
3. DATA [データ] ホイールまたは、CURSOR [カーソル] [▲/▼]キーを使って“REC SETTING”を反転表示し、ENTERキーを押します。



4. CURSOR [カーソル] [▲/▼]キーを使って“FILE TYPE”項目を反転表示します。



5. DATA [データ] ホイールを使ってファイルタイプを選びます。



6. HOME [ホーム] キーを押してホーム画面に戻ります。



録音時間について

各録音フォーマットにおけるメディア容量別の録音時間を以下の表に示します。

書き込みフォーマット		CDメディア容量		(BB-1000CDのみ)				
		650MB	700MB					
CD-DA 16 Bit、44.1 kHz		1時間 14分	1時間 20分					

書き込みフォーマット (FILE TYPE)		SD/SDHC カード容量				
		1GB	2GB	4GB	8GB	16GB
WAV 16Bit、44.1kHz		1時間39分	3時間 18分	6時間 36分	13時間 12分	26時間 24分
MP3	Low (44.1kHz、64kbps)	35時間 50分	71時間 40分	143時間 20分	286時間 40分	573時間 20分
	Normal (44.1kHz、128kbps)	17時間 55分	35時間 50分	71時間 40分	143時間 20分	286時間 40分
	High (44.1kHz、192kbps)	11時間 57分	23時間 54分	47時間 48分	95時間 36分	191時間 12分

- 上記録音時間は目安です。ご使用のSD/SDHCカードにより異なる場合があります。
- 上記録音時間は連続録音時間ではなく、SD/SDHCカードに録音可能な合計時間です。
- 連続録音時間は、23時間59分を越えることはできません。最大ファイルサイズは2GBです。
- SDカードに録音後、EDIT機能を使って“DIVIDE”を行う場合は、WAVファイルで録音してください。MP3ファイルは“DIVIDE”を行うことはできません。
- CDに録音する場合は、サンプリング周波数44.1kHz、量子化ビット数16ビットとなります (BB-1000CDのみ)。

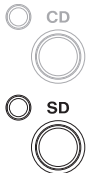
SDカードに新しいフォルダを作成する

レコーダーが停止していることを確認してください。

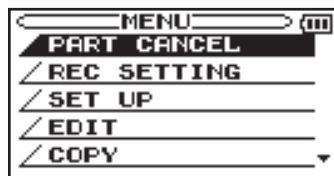
1. HOME【ホーム】キーを押してホーム画面を表示します。



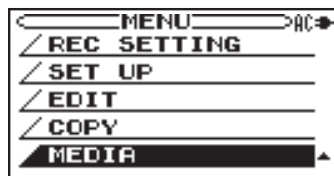
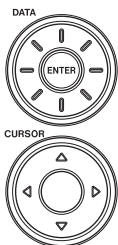
2. SDキーを押します (BB-1000CDのみ)。このときSDキーの左上のインジケーターが点灯します。



3. MENU【メニュー】キーを押して“MENU”画面を表示します。

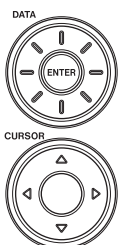


4. DATA【データ】ホイールまたは、CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って“MEDIA”を反転表示し、ENTERキーを押します。



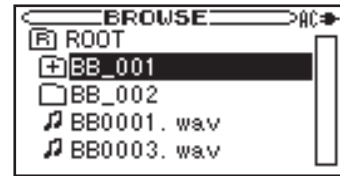
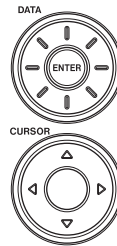
“MEDIA SD”画面が表示されます。

5. DATA【データ】ホイールまたは、CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って“BROWSE”を反転表示し、ENTERキーを押します。



“BROWSE”画面が表示されます。

6. DATA【データ】ホイールまたは、CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使ってフォルダを作りたい位置にカーソルを移動します。



SDカードの第一階層にフォルダを作る場合は、“Root”を選択します。第二階層にフォルダを作る場合は、これから作成するフォルダを含むフォルダを選択します。

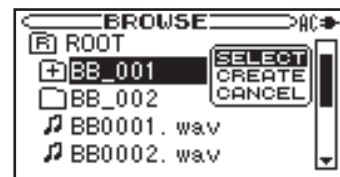
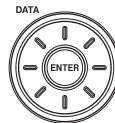
上の階層のフォルダを選択するには、CURSOR【カーソル】[◀]を押します。

選択（反転表示）したフォルダを開く場合は、CURSOR【カーソル】[▶]を押します。

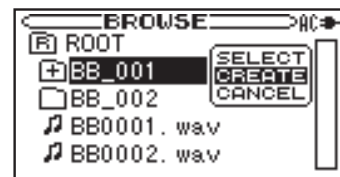
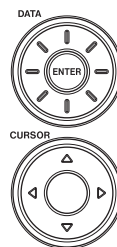
注意

本機でフォルダを作成する場合は、第二階層までとなります。再生できる範囲も、第二階層のフォルダに収録した曲までとなります。

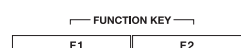
7. ENTERキーを押します。ポップアップウィンドウを表示します。



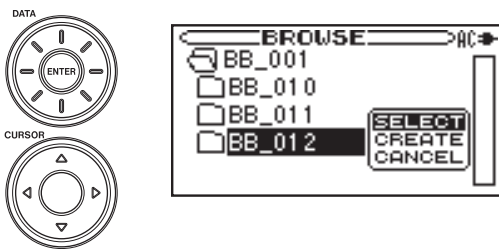
8. DATA【データ】ホイールまたは、CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って“CREATE”を選択し、ENTERキーを押します。



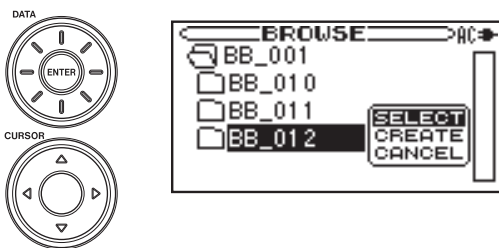
9. 以下の画面を表示します。F1キーを押すと新しいフォルダを作ります。F2キーを押すと操作をキャンセルします。



- 10. DATA【データ】** ホイールまたは、CURSOR【カーソル】 [▲/▼]キーを使って、今作成したフォルダを反転表示し、ENTERキーを押します。ポップアップウィンドウが表示されます。



- 11. DATA【データ】** ホイールまたは、CURSOR【カーソル】 [▲/▼]キーを使って“SELECT”を選択し、ENTERキーを押します。



メモ

- 本機でフォルダを作成する場合は、フォルダ名は BB_001 ~ BB_999 となります。
- ファイル数とフォルダ数を合わせて、最大999個まで認識できます。
- 各フォルダの最大ファイル数は99です。
- “BROWSE”画面のポップアップウィンドウで、フォルダ選択時に“SELECT”を選択すると、ホーム画面に戻り、選択されたフォルダが、録音フォルダおよび再生範囲となります。“CANCEL”を選択した場合は、選択しているフォルダに関する操作をキャンセルします。

録音する

- 1. HOME【ホーム】** キーを押してホーム画面を表示させます。



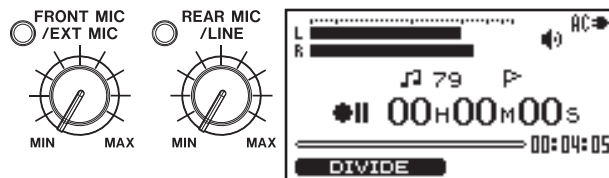
- 2. REC/READY【録音/待機】** [●]キーを押します。

録音待機状態になり、REC/READY【録音/待機】[●]キーが点滅します。

REC/READY



- 3. FRONT MIC/EXT MIC【前面マイク/外部マイク】** つまみ、および、REAR MIC/LINE【背面マイク/ライン入力】つまみを使って録音レベルを調節します。このときディスプレイのメーターが振り切れないように調節します。



- 4. 準備が整ったら、REC/READY【録音/待機】** [●]キーを押して録音を開始します。録音中はREC/READY【録音/待機】[●]キーが点灯します。

REC/READY



- 5. 録音中に REC/READY【録音/待機】** [●]キーを押すと、録音待機状態になります。このとき、REC/READY【録音/待機】[●]キーが点滅します。

録音中または録音待機中に STOP【停止】キーを押すと、録音を停止します。このとき、REC/READY【録音/待機】[●]キーが消灯します。

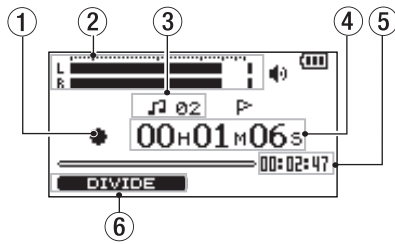
REC/READY



メモ

- CDは最大99トラックまで録音が可能です。
- SDカードには、各フォルダに99ファイルまで録音可能です。
- SDカード全体で、ファイルとフォルダ数合わせて、999個まで作成することが可能です。

録音画面



① レコーダー動作

レコーダーの動作状態をアイコン表示します。

- : 録音中
- II : 録音待機
- : 停止中

② 録音レベルメーター

入力信号のレベルをL、Rチャンネル別々に表示します。
レベルが大きすぎると、メーターの右端がしばらく点灯します。

③ 曲番号

現在録音している曲（ファイル）の番号を表示します。

④ 録音経過時間

録音中の曲の経過時間（時：分：秒）を表示します。

⑤ 録音残時間

録音しているメディアの残時間（時：分：秒）を表示します。

⑥ F1 キー機能

F1キーの機能を表示します。F1キーは録音画面では、録音中の曲を分割する（“DIVIDE”）機能となります。

録音中にトラックを更新し録音を継続する

録音中にF1キーを押します。F1キーを押した時点で新しいトラックが作成され、録音はそのまま続きます。



注意

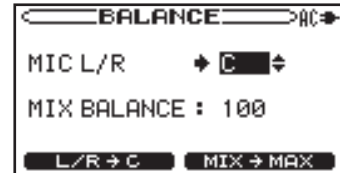
以下の場合、録音中にトラックを分割することができません。

- 録音可能な残り時間が4秒以下の場合
- 録音開始後4秒以内の場合
- 新しいトラック作成後4秒以内の場合
- CDで99トラックを録音しているとき
- SDカードで99ファイルを録音しているとき
- SDカードに録音しているとき、ファイルとフォルダ数の合計が999のとき

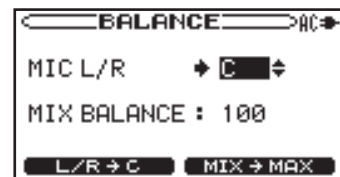
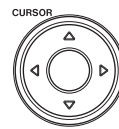
さまざまな録音の設定

マイクのバランスを設定する

1. BALANCE [バランス] キーを押して、“BALANCE”画面を表示させます。

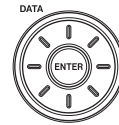


2. CURSOR [カーソル] [▲/▼]キーを使って“MIC L/R”項目を反転表示します。



3. DATA [データ] ホイールを使ってマイクのバランスを調節します。

“L50” ~ “C”（センター） ~ “R50”の範囲で設定できます。



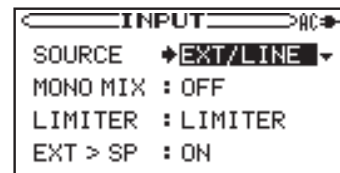
メモ

- この設定は、内蔵マイク、外部マイク両方に有効です。
- F1キーを押すと、バランスをL/R均等にします。

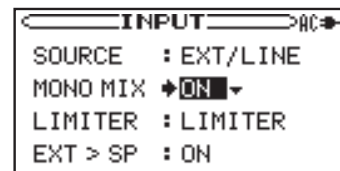
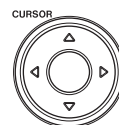
モノラル録音する

入力信号のL/Rをミックスしてモノラル録音します。
外部マイクを一本だけ使用する場合などに“ON”にします。

1. INPUT [入力選択] キーを押して、“INPUT”画面を表示します。

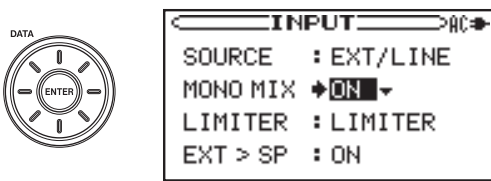


2. CURSOR [カーソル] [▲/▼]キーを使って“MONO MIX”項目を反転表示します。



第4章 録音する

3. DATA 【データ】 ホイールを使って“ON”にします。



4. HOME 【ホーム】 キーを押してホーム画面に戻ります。



メモ

モノラル録音時は、LRに同じ音声を録音したステレオファイルを作ります。

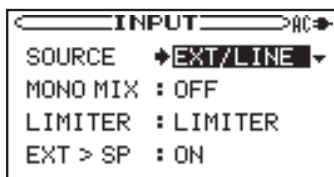
リミッターを使う

ライブなどで不意に大きな音が入力されてしまうときに、リミッターを使用すると、過大入力を防いで歪みのない録音ができます。

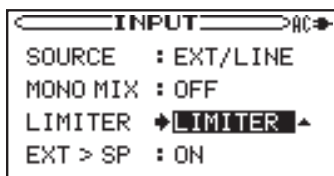
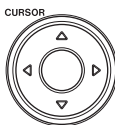
1. 左サイドパネルの AUTO/LIMITER スイッチを ON にします。



2. INPUT 【入力選択】 キーを押して、“INPUT” 画面を表示させます。

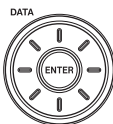


3. CURSOR 【カーソル】 [▲/▼] キーを使って“LIMITER” 項目を反転表示させます。



4. DATA 【データ】 ホイールを使って以下の中から選択します。

- LIMITER
入力レベルに応じて本機の入力ゲインが変化し、大きい音が入力されても歪まないレベルになります。
- AGC HIGH/AGC LOW
入力レベルに応じて本機の入力ゲインが変化し、大きい音も小さい音も一定のレベルになります。会議録音など、人の会話を録音するのに向いています。
入力レベルが低いときは“AGC HIGH”を、入力レベルが高いときは“AGC LOW”を選択してください。



注意

AGC HIGH/AGC LOW を使用するときには、FRONT MIC/EXT MIC 【前面マイク/外部マイク】 つまみおよび REAR MIC/LINE 【背面マイク/ライン入力】 つまみでの入力レベル調整はできません。

5. HOME 【ホーム】 キーを押してホーム画面に戻ります。



自動録音機能を使う

入力信号の音量に応じて録音待機状態から録音を自動で開始/停止することができます。

STOP キーを押してレコーダーを停止してください。

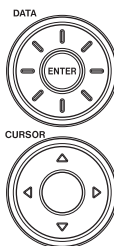
1. HOME 【ホーム】 キーを押してホーム画面を表示します。



2. MENU 【メニュー】 キーを押して“MENU” 画面を表示します。

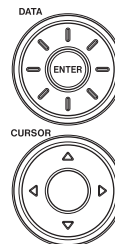
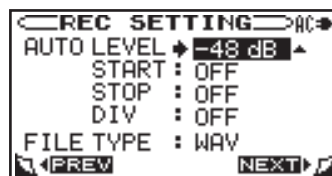


3. DATA 【データ】 ホイールまたは、CURSOR 【カーソル】 [▲/▼] キーを使って“REC SETTING” を反転表示し、ENTER キーを押します。



“REC SETTING” 画面が表示されます。

4. 以下の4つの項目の設定を行います。項目の選択は CURSOR 【カーソル】 [▲/▼] キーを使います。設定は DATA 【データ】 ホイールを使って行います。



AUTO LEVEL :

各動作を行う入力信号のレベルを設定します。“-48dB”、“-24dB”、“-12dB”、“-6dB”から選択します。マイナスの数字が大きいほど小さい音量で動作します。

START :

“ON”にすると、録音待機中に入力信号が“AUTO LEVEL”で設定したレベルを超えると、自動的に録音を開始します。

STOP :

入力信号が“AUTO LEVEL”で設定したレベルを下回ったとき、自動で録音待機状態になるまでの時間を設定します。“OFF”（初期値）、“5”、“10”、“15”、“20”、“25”、“30”秒から選択します。

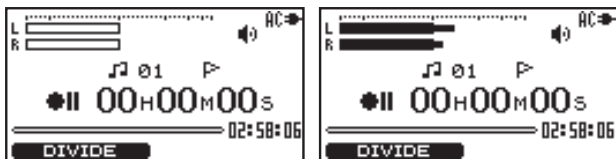
DIV :

“ON”に設定すると、入力信号が“AUTO LEVEL”以下になってから2秒以上経過した後、再び“AUTO LEVEL”を超えたときに新しいトラックを作成します。

5. HOME【ホーム】 キーを押してホーム画面に戻ります。



自動録音機能がオンになっている、録音待機状態のとき、ディスプレイのメーター表示部に、“AUTO LEVEL”で設定したレベル位置を以下のように表示します。



ヒント

“START”と“STOP”を設定することで、余分な無音区間をカットして録音することができます。無音ごとにトラックを変えたいけれども、録音が途切れるのを防ぎたい場合は“DIVIDE”だけを設定してください。

“START”と“STOP”、“DIVIDE”すべてを組み合わせると、「5秒（“STOP”の設定時間）以下の無音はカットせずに録音し、それ以上の無音部分はカットして録音する」などが可能になります。

再生中の曲と演奏をミックスして録音する (OVERDUB)

CD (BB-1000CDのみ) または SDカードの曲を再生しながら新しい音をミックスして SDカードに録音 (オーバーダビング) することができます。例えば、音を重ねて録音したり、カラオケの曲に合わせて演奏した歌や楽器を録音することができます。再生音と演奏音を一緒にマイクで録音します。

メモ

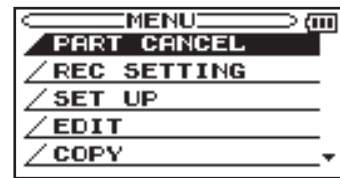
- オーバーダビング機能を使う場合は、必ず SDカードをセットしてください。
- オーバーダビング機能を使って録音した場合は、WAVファイルを作成します。

STOPキーを押してレコーダーを停止してください。

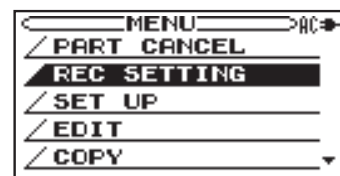
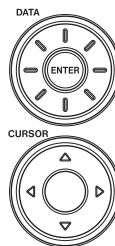
1. HOME【ホーム】 キーを押してホーム画面を表示します。



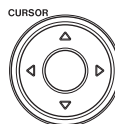
2. MENU【メニュー】 キーを押して“MENU”画面を表示します。



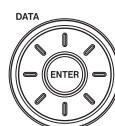
3. DATA【データ】 ホイールまたは、CURSOR【カーソル】 [▲/▼]キーを使って“REC SETTING”を反転表示し、ENTERキーを押します。



4. CURSOR【カーソル】 [▲/▼]キーを使って“FILE TYPE”を反転表示します。



5. DATA【データ】 ホイールを使って“WAV”を選択します。

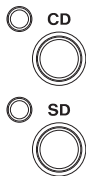


第4章 録音する

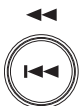
6. HOME【ホーム】キーを押してホーム画面に戻ります。



7. CDまたはSDキーを使って再生するメディアを選びます (BB-1000CDのみ)。



8. ◀◀/▶▶キーを使って、再生する曲を選択します。



9. PLAY/READY【再生/一時停止】[▶/||]キーを押して再生を開始しながら演奏を行い、再生音と演奏との音量バランスをチェックします。

PLAY/READY



10. SPEAKERスイッチをONにして、ヘッドホンをPHONES端子から抜きます。



11. OVERDUB【重ね録音】[●]キーを押して録音待機状態にします。曲の再生中でも、オーバーダビングを行うことは可能です。

OVERDUB



メモ

- オーバーダビング画面では、録音画面の曲番号の代わりに再生している曲番号、マーク名の代わりに録音している曲番号を表示します。
- 録音待機中にPLAY/READY【再生/一時停止】[▶/||]キーを押すと、録音待機状態のままメディアの再生が始まります。この状態で◀◀/▶▶キーを押し続けるので早戻し/早送り再生も可能です。

12. 必要に応じて、再生信号の音量を増減することによって、バランスを調節します。

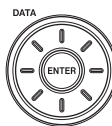
BALANCE【バランス】キーを押して“BALANCE”画面を表示します。



13. CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って“MIX BALANCE”項目を反転表示します。



14. DATA【データ】ホイールを使って本機の再生音を調節します。“10”～“100”の範囲で設定できます。“100”にすると再生音量が最大になります。



メモ

F2キーを押すと、“MIX BALANCE”が“100”に設定されます。急に音量が増加しますので、停止中あるいは、出力ボリュームを下げてから押ししてください。

15. REC/READY【録音/待機】[●]キーを押すと、録音が始まり、同時に再生が始まります。

録音中はREC/READY【録音/待機】[●]キーが点灯します。

REC/READY



16. 録音中にREC/READY【録音/待機】[●]キーを押すと、録音待機状態になります。録音待機中はREC/READY【録音/待機】[●]キーが点滅します。

録音中または録音待機中にSTOP【停止】キーを押すと、録音を停止します。このとき、REC/READY【録音/待機】[●]キーが消灯します。

REC/READY



メモ

外部マイクを使う場合は、楽器の音の出る場所と本機のスピーカーから均等の位置にマイクを設置することをお勧めします。

注意

- 外部マイクを使用する場合は、外部マイクをスピーカーに向けないでください。ハウリングを引き起こす可能性があります。
- FRONT MIC/EXT MIC つまみや VOLUME を上げるとハウリングを起こしやすくなります。

より高音質でオーバーダビングする
(DIRECT MIX)

“DIRECT MIX” モードを使うと、マイクを使って入力される演奏音と再生音を本機内部でミキシングして録音を行うため、より高音質でオーバーダビングが可能になります。

ただし、再生音をマイクから録音してしまうのを防ぐためにヘッドホンが必要になります。

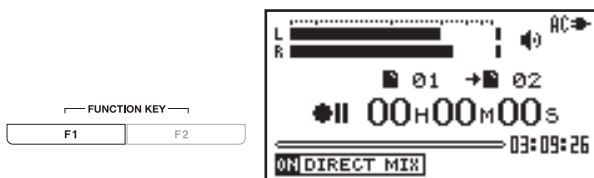
“DIRECT MIX” モードはヘッドホンを接続すると自動的に “ON” になります。また、以下の方法で、手動で “DIRECT MIX” モードを “ON” にすることも可能です。電子楽器を LINE IN 端子に接続してオーバーダビングする場合などは、ヘッドホンを使わなくても “DIRECT MIX” モードでオーバーダビングすることが可能です。

- OVERDUB 【重ね録音】 [●] キーを押して録音待機にします。

OVERDUB



- F1 キーを押して “DIRECT MIX” モードにします。



以降は通常のオーバーダビング (OVERDUB) と同様です。

CD-R/RW ディスクを他の CD プレーヤー
で再生できるようにする
(BB-1000CD のみ)

本機を使って録音した CD-R/RW ディスクを他の機器で再生するには、CD-R/RW ディスクをファイナライズする必要があります。ファイナライズを行うと、それ以上追加録音はできません。以下の操作説明は、録音・再生メディアが CD に設定され、ファイナライズされていない CD-R/RW がセットされていることを前提としています。

レコーダーが停止していることを確認してください。

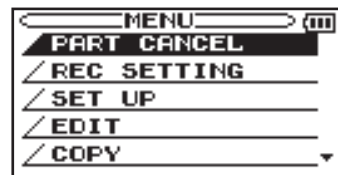
- HOME 【ホーム】 キーを押してホーム画面を表示します。



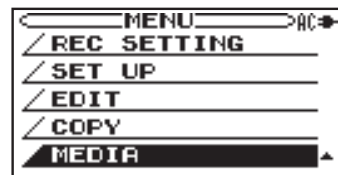
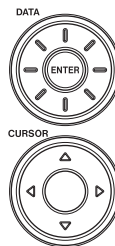
- CD キーを押します。このとき CD キーの左上のインジケーターが点灯します。



- MENU 【メニュー】 キーを押して “MENU” 画面を表示させます。

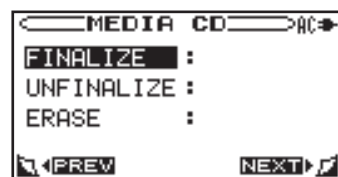
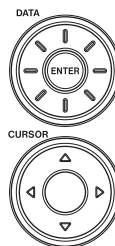


- DATA 【データ】 ホイールまたは、CURSOR 【カーソル】 [▲/▼] キーを使って “MEDIA” を反転表示し、ENTER キーを押します。



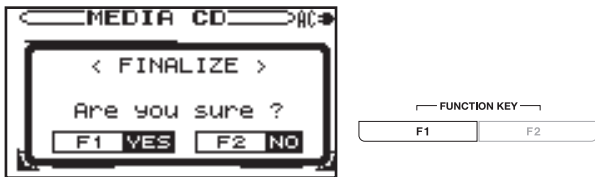
“MEDIA CD” 画面が表示されます。

- CURSOR 【カーソル】 [▲/▼] キーを使って “FINALIZE” を反転表示し、ENTER キーを押します。



第4章 録音する

6. 以下の確認画面を表示します。F1キーを押します。ファイナライズが始まります。ファイナライズが終了すると、“MEDIA CD”画面に戻ります。



メモ

ファイナライズをしていないCD-R/RWディスクを取り出すとき、ファイナライズの確認画面が出ます。F1キーでファイナライズ実行、F2キーでそのまま排出します。



CD-RWディスクを追加録音できる状態にする (BB-1000CDのみ)

ファイナライズ済みのCD-RWでもアンファイナライズを行うことで再び追加録音が可能になります。

以下の操作説明は、録音・再生メディアがCDに設定され、CD-RWがセットされていることを前提としています。

レコーダーが停止していることを確認してください。

1. HOME【ホーム】キーを押してホーム画面を表示します。



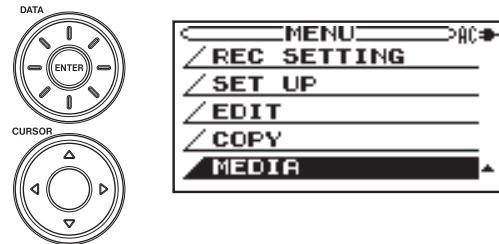
2. CDキーを押します。このときCDキーの左上のインジケータが点灯します。



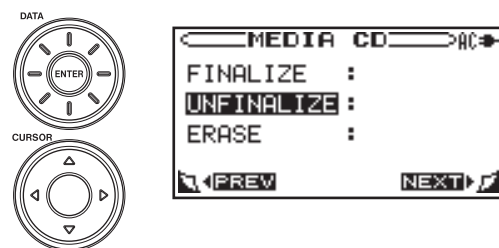
3. MENU【メニュー】キーを押して“MENU”画面を表示します。



4. DATA【データ】ホイールまたは、CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って“MEDIA”を反転表示し、ENTERキーを押します。



5. “MEDIA CD”画面を表示します。CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って“UNFINALIZE”を反転表示し、ENTERキーを押します。



6. 以下の確認画面が表示されます。F1キーを押すと、アンファイナライズが始まります。アンファイナライズが終了すると、“MEDIA CD”画面に戻ります。



CD-RWディスクのトラックを消去する (BB-1000CDのみ)

CD-RWがセットされている場合は、すべてのトラックまたは一番最後のトラックを消去することができます。ファイナライズされたCD-RWの場合は、一旦アンファイナライズしてください(→34ページ「CD-RWディスクを追加録音できる状態にする(BB-1000CDのみ)」)。

以下の操作説明は、録音・再生メディアがCDに設定され、CD-RWがセットされていることを前提としています。

レコーダーが停止していることを確認してください。

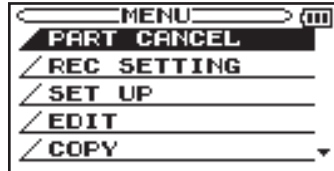
1. HOME【ホーム】 キーを押してホーム画面を表示します。



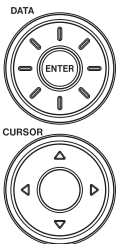
2. CDキーを押します。このときCDキーの左上のインジケータが点灯します。



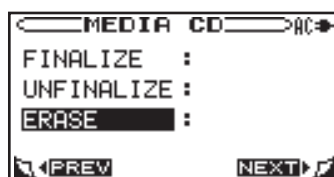
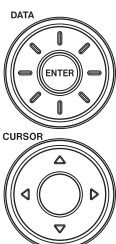
3. MENU【メニュー】 キーを押して“MENU”画面を表示します。



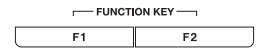
4. DATA【データ】 ホイールまたは、CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って“MEDIA”を反転表示し、ENTERキーを押します。



5. “MEDIA CD” 画面を表示します。CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って“ERASE”を反転表示し、ENTERキーを押します。



6. DATA【データ】 ホイールを使って“LAST TRACK”(最終トラック)または“ALL TRACK”(全トラック)を選択し、F1キーを押します。選んだトラックを消去します。F2キーを押すと、消去の実行をキャンセルします。



第5章 再生する

本機で再生できるオーディオファイル形式は、SDカードの場合はMP3(32kbps ~ 320kbps, 44.1kHz)およびWAV(44.1kHz, 16ビット)です。

CDの場合は、オーディオCDが再生できます(BB-1000CDのみ)。

注意

オーディオCD以外のディスクを挿入したり、ディスクを裏返して挿入した場合は、CD選択時に自動的に排出されます。

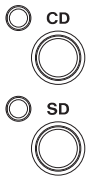
SDカードのファイルを再生するかCDを再生するかを選ぶ(BB-1000CDのみ)

レコーダーが停止していることを確認してください。

1. HOME【ホーム】キーを押してホーム画面を表示します。



2. SDカードのファイルを再生する場合は、SDキーを押します。このとき、SDキーの左上のインジケータが点灯します。CDを再生する場合は、CDキーを押します。このとき、CDキーの左上のインジケータが点灯します。



SDカードで再生するフォルダを選ぶ

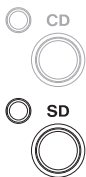
ブラウズ画面を使ってSDカード上のフォルダやオーディオファイルを見ることができ、再生するフォルダを選択します。

レコーダーが停止していることを確認してください。

1. SDカードをセットします。
2. HOME【ホーム】キーを押してホーム画面を表示します。



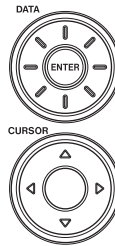
3. SDキーを押します(BB-1000CDのみ)。このときSDキーの左上のインジケータが点灯します。



4. MENU【メニュー】キーを押して“MENU”画面を表示します。

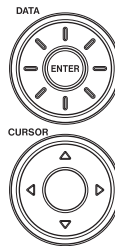


5. DATA【データ】ホイールまたは、CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って“MEDIA”を反転表示し、ENTERキーを押します。



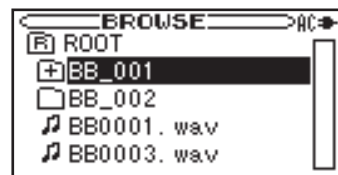
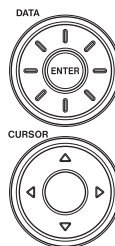
“MEDIA SD”画面が表示されます。

6. DATA【データ】ホイールまたは、CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って“BROWSE”を反転表示し、ENTERキーを押します。



現在選択していたファイルを含むフォルダの内容が表示されます。

7. DATA【データ】ホイールまたは、CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使ってファイルやフォルダを選択(反転表示)します。

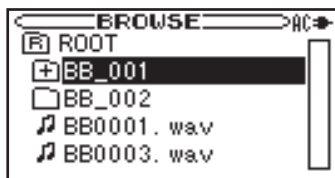


- フォルダが反転表示されているときに CURSOR【カーソル】[▶]キーを押すと、フォルダの内容を表示します。
- ファイルやフォルダが反転表示されているときに CURSOR【カーソル】[◀]キーを押すと、現在開いているフォルダが閉じて、上位の階層を表示します。

メモ

- 録音・再生メディアを切り換えるときは、再生/録音を停止してください。再生中や録音中、一時停止中には録音・再生メディアを切り換えることはできません（BB-1000CDのみ）。
- SDカードでは、現在再生中の曲を含むフォルダが再生範囲となります。他のフォルダの曲を再生したい場合は、“BROWSE”画面でフォルダを選択してください。
- 本機で認識可能な最大ファイル数は、ファイル数とフォルダ数を合わせて999個です。また本機で認識可能な各フォルダの最大ファイル数は99個です。
- “BROWSE”画面で表示されるファイルの表示順と、実際の再生順は異なります。再生順を確認したい場合は、“EDIT”画面を開いてください（→42ページ「編集機能とファイルの操作」）。
- MOVE機能で再生順を替えることができます（→42ページ「編集機能とファイルの操作」）。

“BROWSE”画面内のアイコン表示



ROOT フォルダ ([ROOT]) ROOT

ルート (ROOT) 階層表示中の“BROWSE”画面では、最上段にROOTフォルダが表示されます。

オーディオファイル (WAVまたはMP3ファイル) ([WAV])

音楽ファイルは ([WAV]) のあとにファイル名が表示されます。

フォルダ (+付きフォルダアイコン [+])

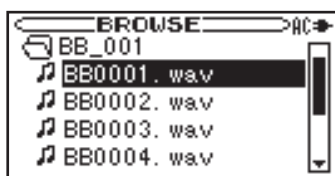
内部にフォルダが存在するフォルダです。

フォルダ (真っ白のフォルダアイコン [])

内部にフォルダが存在しないフォルダです。

表示中のフォルダ (開いたフォルダアイコン [])

現在、このフォルダの内容を画面表示しています。



再生する

HOME【ホーム】キーを押してホーム画面を表示します。



STOP



◀◀



▶▶



PLAY/READY



再生する

再生中にPLAY/READY【再生/一時停止】[▶/||]キーを押すと、再生を始めます。

一時停止する

再生中にPLAY/READY【再生/一時停止】[▶/||]キーを押すと、その位置で一時停止します。

停止する

再生中にSTOP【停止】キーを押すと、再生が停止して曲の先頭に戻ります。

曲を選ぶ

再生中や停止中に◀◀/▶▶キーを使って曲を選択します。

再生中あるいは曲の途中で一時停止しているときに◀◀キーを押すと、曲の先頭に戻ります。

曲の先頭から1秒以内で◀◀キーを押すと、前の曲の先頭にスキップします。

▶▶キーを押すと、常に次の曲にスキップします。

メモ

曲の先頭で停止しているときは、ディスプレイに動作アイコン“■”が表示されます。曲の途中で停止しているときは、動作アイコン“||”が表示されます。

早戻し/早送りする

◀◀/▶▶キーを押し続けると、早戻し/早送りサーチを行います。

DATA【データ】ホイールを使って再生位置を移動する

DATA【データ】ホイールを回すと、再生位置表示バーの示す位置が変わり、再生位置が移動します。

メモ

再生中にDATA【データ】ホイールを回した場合は、DATA【データ】ホイールを止めた時点で移動した再生位置から再生が始まります。

少しだけ戻す (FLASH BACK)

再生/一時停止中に少しだけ戻したい場合は、FLASH BACK【フラッシュバック】キーを押すと、設定した秒数だけ手前に戻って再生を行います。戻る秒数は初期値で2秒ですが、“SET UP”項目の“FLASH BACK”の設定を変更することで、1秒～5秒の間の任意の秒数に設定できます（→50ページ「フラッシュバックの設定 (FLASH BACK)」）。

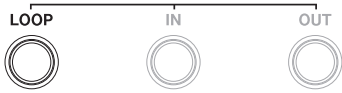
FLASH BACK



曲をリピート再生する（リピート再生）

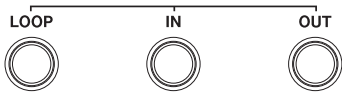
再生中の曲を繰り返し再生することができます（1曲リピート再生）。
LOOP【ループ】 キーを押すと「♻️」を表示し、リピート再生が始まります。現在再生中の曲を繰り返し再生します。

リピート再生を中止するには、**LOOP【ループ】** キーを押します。



一定区間だけ繰り返して再生する（ループ再生）

曲内の希望の区間を繰り返し再生（ループ再生）することができます。



- 再生中（または一時停止中）、ループ再生したい区間の始点で **IN【イン】** キーを押します。
 現在位置が IN 点（始点）として設定されます。
- ループ再生したい区間の終点で **OUT【アウト】** キーを押します。
 現在位置が OUT 点（終点）として設定され、IN - OUT 点間のループ再生が開始されます。



- ホーム画面の再生位置表示バーの下部には始点、終点それぞれの設定の該当する位置に“▲”、“▼”が点灯します。またループ再生中は、“♻️”が点灯します。
 - ループ再生中に **▶▶** キーを押すと、始点-終点間の間隔はそのまま、現在の終点の位置に始点が移動します。
◀◀ キーを押すと、始点-終点間の間隔はそのまま、現在の始点の位置に終点が移動します。
 - LOOP【ループ】** キーを押しながら **IN【イン】** キーまたは **OUT【アウト】** キーを押すと、始点または終点の設定を破棄します。
- ループ再生を中止するには、**LOOP【ループ】** キーを押します。
 繰り返し区間の設定は残り、再び **LOOP【ループ】** キーを押すと、また繰り返し再生が始まります。

メモ

- 始点しか設定されていない場合は、始点から曲の終わりまでの範囲をループ再生します。
- 終点しか設定されていない場合は、曲の始めから終点までの範囲をループ再生します。
- 始点終点共に設定されていない場合は、1曲のリピート再生をします。

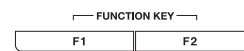
曲内の希望の位置にマークポイントを設定する

曲内の希望の位置にマークポイントを設定して、そこから再生することができます。

- 再生中（または一時停止中）、マークしたい位置で **▶ MARK【マーク】** キーを押します。現在位置をマークします。



- F1** キーを押すと直前のマーク位置まで戻り、もう一度押すとさらに前のマーク位置に戻ります。
F2 キーを押すと、次のマーク位置へ進みます。



- 1曲あたり最大26個（AからZ）のマークをつけることができます。
- ホーム画面の再生位置表示バーの上部にはマークした位置に“■”が点灯します。またトラック番号の右に、現在の再生位置より手前にあるマークのうち、最も近いマーク名を表示します。
- LOOP【ループ】** キーを押しながら **▶ MARK【マーク】** キーを押すと、現在表示しているマークを消去します。



第6章 楽器の練習をする

楽器のチューニングをする

本機は、楽器用チューナーを内蔵しています。楽器の音をマイクを通して本機に入力することで、ディスプレイ上のチューニングメーターを見ながら正確なチューニングができます。また、基準音を出することもできます。

注意

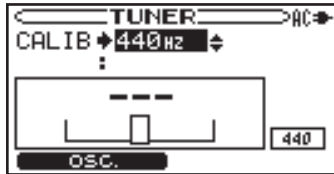
CDまたはSDを再生中にTUNERキーを押すと、CDまたはSDは一時停止状態になります。

基準音を調整する（キャリブレーション）

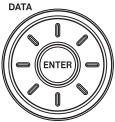
1. TUNER【チューナー】キーを押します。



クロマチックチューナーモードの画面を表示します。



2. DATA【データ】ホイールを使って“CALIB”項目（A音の基準周波数）を“435Hz”～“445Hz”の範囲で設定します。



設定値は画面右下側にも表示されます。
この設定は2つのチューナーモードに共通です。

チューナーモードを切り換える

1. TUNER【チューナー】キーを押します。

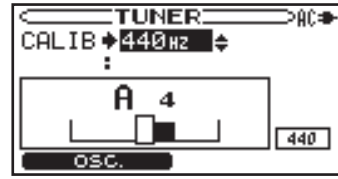


2. F1キーを押してチューナーモードを選択します。キーを押すごとに、クロマチックチューナーモードとオシレーターモードに交互に切り換わります。



OSC. : オシレーターモードへ切り換わります。
CHROMATIC : クロマチックモードへ切り換わります。

クロマチックチューナーモード



本機のチューニングメーターを見ながら楽器をチューニングすることができます。

画面にはチューニングメーターと入力信号の音名を表示します。（入力がない、または測定が不可能なときの音名表示は“— — —”となります）

1. 前面の左側のマイクに向かって、チューニングする楽器の音を出します。もっとも近い音名をディスプレイに表示します。

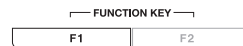
2. 合わせたい音名が表示されて、チューニングメーター中央部が点灯するように、楽器をチューニングします。
音が低い場合はメーターの左側に、高い場合は右側にバーを表示します。ずれが大きいほどバーが長くなります。

ヒント

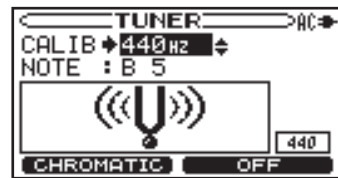
チューニングのずれは、フロントパネルのインジケータでも確認できます。
音があっている場合は中央緑色のインジケータが点灯します。あっていない場合は中央赤色のインジケータが点灯し、ずれている分だけ左右に緑色のインジケータが点灯します。

オシレーターモード

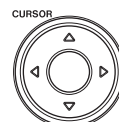
クロマチックチューナーモード時にF1キーを押すと、内蔵のオシレーターを使って、基準音を出力することができます。3オクターブ（“C3”～“B5”）の範囲の音を出力することができます。



オシレーターモードには前述の“CALIB”項目の他に、“NOTE”（音程）の設定項目があります。

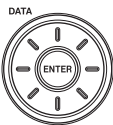


1. CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って“NOTE”項目を反転表示します。



第6章 楽器の練習をする

2. DATA【データ】 ホイールを使って出力する音（“C3”～“B5”）を選択します。



F2キーを押すごとに、オシレーター音の“ON”と“OFF”が切り換わります。

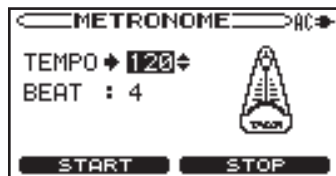


メトロノームを使う

本機はメトロノームを内蔵しています。フロントパネルのボリューム/再生/録音インジケーターがメトロノームに合わせて点灯します。

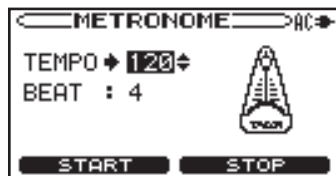
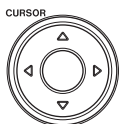
メトロノームを使うには、METRONOME【メトロノーム】キーを押してメトロノーム（“METRONOME”）画面を表示します。

METRONOME

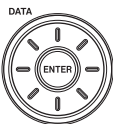


速さ（TEMPO）の設定

1. CURSOR【カーソル】 [▲/▼]キーを使って“TEMPO”項目を反転表示します。

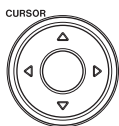


2. DATA【データ】 ホイールを使ってスピードを設定します。“20”～“250”の範囲で設定できます。

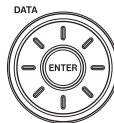


拍子（BEAT）の設定

1. CURSOR【カーソル】 [▲/▼]キーを使って“BEAT”項目を反転表示します。

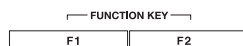


2. DATA【データ】 ホイールを使って拍子を設定します。拍子の1拍目にアクセントが付きます。拍子は“0”～“9”の範囲で設定できます。“0”に設定するとアクセントがありません。



メトロノームのスタート/ストップ

メトロノーム画面表示中、F1/F2キーを押すと、メトロノームがスタート/ストップします。



メモ

- メトロノーム動作中は、メトロノームの動きに合わせてフロントパネルのインジケーターが点灯します。
- メトロノーム動作中は、ホーム画面に戻ることができません。ホーム画面に戻るには、F2キーを押してメトロノームを止めてからHOME【ホーム】キーを押します。

注意

CDまたはSDを再生中にメトロノームをスタートすると、CDまたはSDが一時停止状態になります。

CD/SDに合わせて練習する

音程を保ったまま再生スピードを変えたり、再生スピードを保ったまま音程を変えることができます。

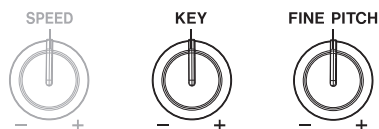
さらに曲中の歌やソロ楽器の音を低減させることもできます。これらの特殊再生機能を使って、練習やフレーズのコピーを効果的に行うことができます。

再生の音程を変える

KEY【キー】 つまみと **FINE PITCH【キー微調整】** つまみを使って、再生スピードを変えずにキー（音程）を変えることができます。

KEY【キー】 つまみでは、±6半音の範囲（b6～#6）で、半音単位で音程を上下できます。

FINE PITCH【キー微調整】 つまみで音程を微調整することができます。セント（半音の1/100）単位で音程を上下（-50～+50）できます。



再生のスピードを変える

SPEED [スピード] つまみを使って、音程はそのまま、再生スピードを変更することができます。
 スピード可変範囲は-50%~+16% (1%刻み) です。最も遅いスピード設定では元のスピードの半分になります。



特定の定位の音を低減させる (パートキャンセル機能)

特定の音の聞こえる位置を選択し、その音の聞こえる位置の音を低減させることができます。例えば、真ん中から聞こえるボーカルの音を低減させることができます。

注意

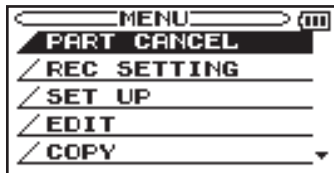
音の聞こえる位置や、リバーブ（エコー）成分によって、パートキャンセルの効果がなかったり少なかったりする場合があります。

レコーダーが停止していることを確認してください。

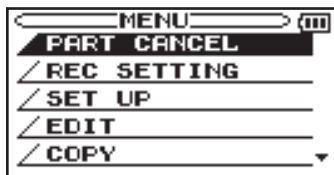
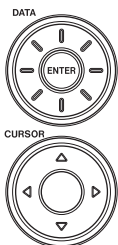
1. HOME [ホーム] キーを押してホーム画面を表示します。



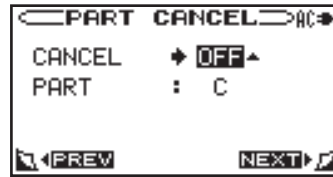
2. MENU [メニュー] キーを押して“MENU”画面を表示します。



3. DATA [データ] ホイールまたは CURSOR [カーソル] [▲/▼] キーを使って“PART CANCEL”を反転表示し、ENTERキーを押します。



4. 以下の設定を行うことができます。項目の選択はCURSOR[カーソル] [▲/▼]キーを使います。設定はDATA [データ] ホイールを使って行います



“CANCEL”（初期値：“OFF”）

ONに設定するとパートキャンセル機能がオンになります。

“PART”（初期値：“C”）

低減させたい音の聞こえる位置に合わせて設定します。

“L10”（一番左）～“C”（真ん中）～“R10”（一番右）の範囲で設定します。

一定区間だけ繰り返して練習する

曲内の希望の区間を繰り返し再生（ループ再生）することができます（→ 38ページ「一定区間だけ繰り返して再生する（ループ再生）」）。

CD/SDに合わせた演奏を録音する

本機では、本機で再生している曲とマイクやLINE IN端子からの入力をミックスして録音することができます（→ 31ページ「再生中の曲と演奏をミックスして録音する（OVERDUB）」）。

第7章 編集機能とファイルの操作

“EDIT”画面で、SDカードのファイルの編集を行なうことができます。

以下の操作説明は、SDカードがセットされ、録音・再生メディアがSDに設定されていることを前提としています。

“EDIT”画面で表示されるファイルは、現在選択しているフォルダ内のファイルとなります。あらかじめ“BROWSE”画面で編集したいファイルが含まれているフォルダを選択しておいてください。

メモ

- 編集とファイル、フォルダの操作は、CDではできません。
- 再生/一時停止中にENTERキーを押すと“EDIT”画面を直接開くことができます。このとき、再生/一時停止中のファイルが編集の対象ファイルとなります。
- “EDIT”画面のポップアップウィンドウで、“PLAY”を選択した場合は、ホーム画面に戻り、そのファイルの再生を開始します。“CANCEL”を選択した場合は、選択しているファイルに関する操作をキャンセルします。
- “BROWSE”画面のポップアップウィンドウで、ファイル選択時に“PLAY”を選択した場合は、ホーム画面に戻り、そのファイルの再生を開始します。“CANCEL”を選択した場合は、選択しているファイルに関する操作をキャンセルします。

ファイルを分割する (DIVIDE)

WAVフォーマットで記録されたファイルを、指定した位置で分割します。

メモ

MP3ファイルの場合は、ファイルの分割はできません。レコーダーが停止していることを確認してください。

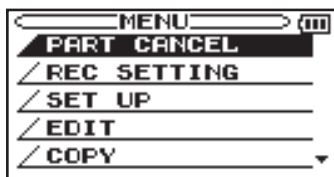
1. HOME【ホーム】キーを押してホーム画面を表示します。



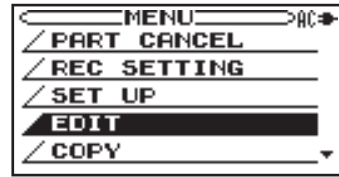
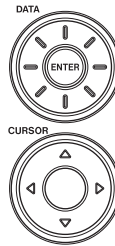
2. SDキーを押します (BB-1000CDのみ)。このときSDキーの左上のインジケータが点灯します。



3. MENU【メニュー】キーを押して“MENU”画面を表示します。

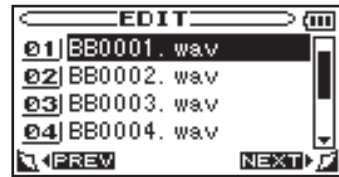
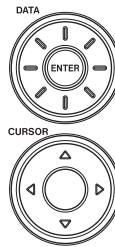


4. DATA【データ】ホイールまたはCURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って“EDIT”を反転表示し、ENTERキーを押します。



5. 現在選択されているファイルを含むフォルダの内容を表示します。

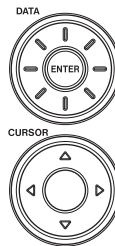
CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って分割したいファイルを選び、ENTERキーを押します。



以下のポップアップウィンドウが表示されます。



6. DATA【データ】ホイールまたは、CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って“DIVIDE”を反転表示し、ENTERキーを押します。



7. ホーム画面に切り換わり、再生を開始します。このとき、レコーダーの動作状態のアイコンが“*”になります。

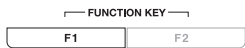


8. 分割したい場所で ENTER キーを押します。

ENTER キーを押した位置から2秒間をリピートし、確認画面を表示します。



9. F1 キーを押すとファイルを分割します。F2 キーを押すと分割を中止します。



ヒント

再生/一時停止中に ENTER キーを押し、再生/一時停止中のファイルを選択したまま ENTER キーを押しして“DIVIDE”を選択すると、再生/一時停止中の位置で2秒間のリピート再生が始まり、“DIVIDE”の確認画面を表示します。

ファイルの分割を途中でやめたい場合は、F2 キーを押しして“NO”を選択し、MENU【メニュー】キーを押します。“EDIT”画面に戻ります。

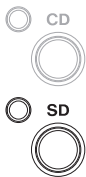
再生する順番を変更する (MOVE)

レコーダーが停止していることを確認してください。

1. HOME【ホーム】キーを押してホーム画面を表示します。



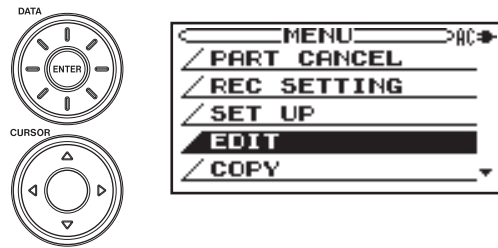
2. SD キーを押します (BB-1000CD のみ)。このとき SD キーの左上のインジケータが点灯します。



3. MENU【メニュー】キーを押して“MENU”画面を表示します。

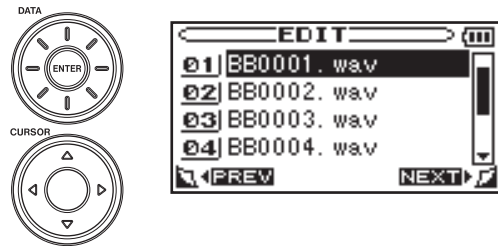


4. DATA【データ】ホイールまたは CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って“EDIT”を反転表示し、ENTER キーを押します。



5. 現在選択されているファイルを含むフォルダの内容が表示されます。

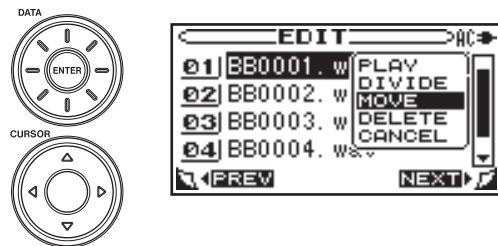
CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って曲順を変更したいファイルを反転表示し、ENTER キーを押します。



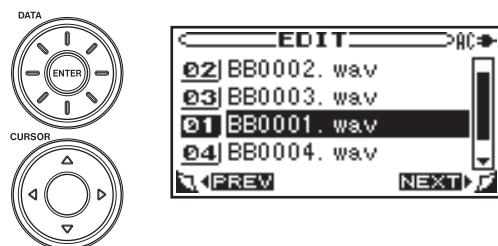
以下のポップアップウィンドウが表示されます。



6. DATA【データ】ホイールまたは、CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って“MOVE”を選択し、ENTER キーを押します。



7. DATA【データ】ホイールまたは、CURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って選択したファイルを移動します。



8. 変更したい位置で ENTER キーを押します。



以下のポップアップウィンドウが表示されます。



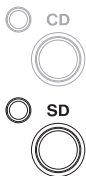
不要なファイルを削除する (DELETE)

レコーダーが停止していることを確認してください。

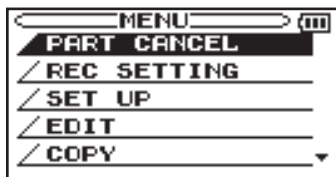
1. HOME 【ホーム】 キーを押してホーム画面を表示します。



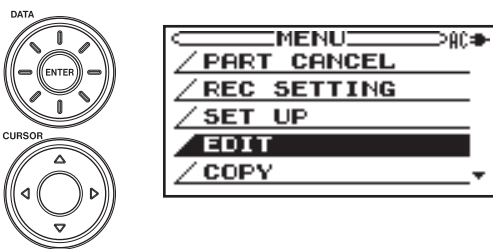
2. SD キーを押します (BB-1000CDのみ)。このとき SD キーの左上のインジケーターが点灯します。



3. MENU 【メニュー】 キーを押して “MENU” 画面を表示します。

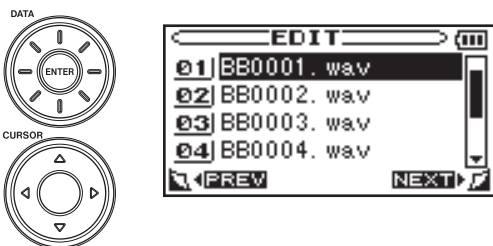


4. DATA 【データ】 ホイールまたは CURSOR 【カーソル】 [▲/▼] キーを使って “EDIT” を反転表示し、ENTER キーを押します。

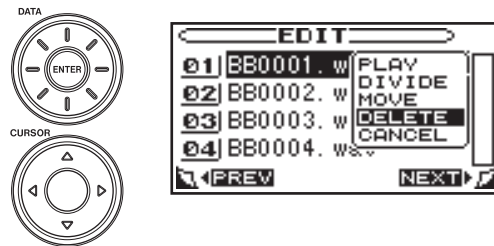


現在選択されているファイルを含むフォルダの内容が表示されます。

5. CURSOR 【カーソル】 [▲/▼] キーを使って削除したいファイルを反転表示し、ENTER キーを押します。



6. DATA 【データ】 ホイールまたは、CURSOR 【カーソル】 [▲/▼] キーを使って “DELETE” を反転表示し、ENTER キーを押します。



7. ファイル削除の確認メッセージが表示されます。F1 キーを押すとファイルを削除し、F2 キーを押すと削除を中止します。



“BROWSE” 画面から不要なファイルを削除することもできます。

レコーダーが停止していることを確認してください。

1. HOME 【ホーム】 キーを押してホーム画面を表示させます。



2. SD キーを押します (BB-1000CDのみ)。このとき SD キーの左上のインジケーターが点灯します。



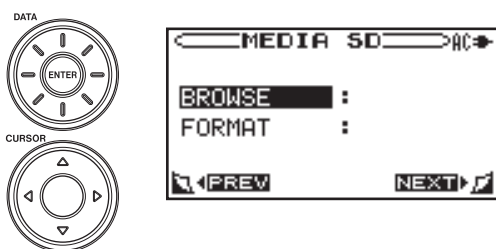
3. MENU 【メニュー】 キーを押して “MENU” 画面を表示します。



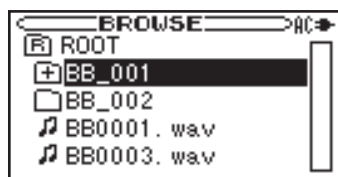
4. DATA 【データ】 ホイールまたは CURSOR 【カーソル】 [▲/▼] キーを使って “MEDIA” を反転表示させ、ENTER キーを押します。



5. DATA 【データ】 ホイールまたは CURSOR 【カーソル】 [▲/▼] キーを使って “BROWSE” を選択し、ENTER キーを押します。

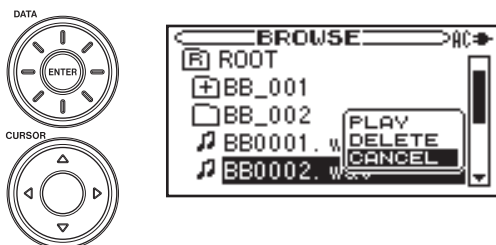


現在選択されているファイルを含むフォルダの内容が表示されます。

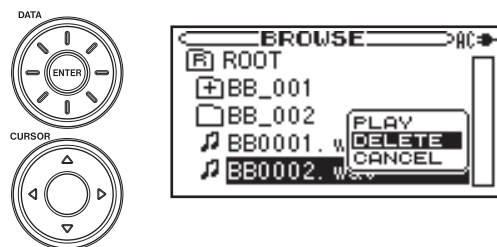


- フォルダの反転表示中に CURSOR 【カーソル】 [▶] キーを押すと、フォルダの内容が表示されます。
- ファイルやフォルダが反転表示中に CURSOR 【カーソル】 [◀] キーを押すと、現在開いているフォルダが閉じて、上の階層が表示されます。

6. DATA 【データ】 ホイールまたは CURSOR 【カーソル】 [▲/▼] キーを使って、削除したいオーディオファイルを反転表示して ENTER キーを押します。以下のポップアップウィンドウが表示されます。



7. DATA 【データ】 ホイールまたは、CURSOR 【カーソル】 [▲/▼] キーを使って “DELETE” を選択し、ENTER キーを押します。



8. ファイル削除の確認メッセージが表示されます。F1 キーを押すとファイルを削除し、F2 キーを押すと削除を中止します。

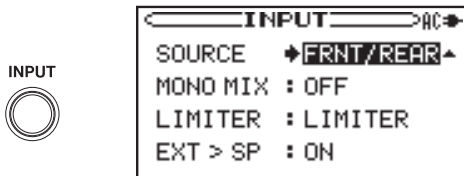


第8章 便利な機能

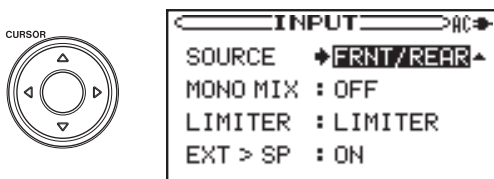
外部マイクの音をスピーカーから出力する

外部マイクを本機に接続し、本機を拡声器として使うことができます。

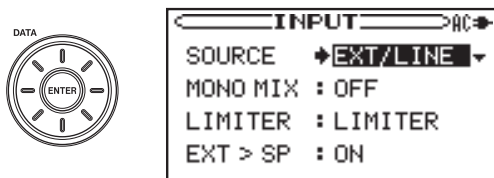
1. INPUT [入力選択] キーを押して、“INPUT” 画面を表示します。



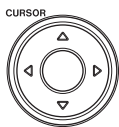
2. CURSOR [カーソル] [▲/▼]キーを使って“SOURCE” 項目を反転表示します。



3. DATA [データ] ホイールを使って“EXT/REAR” または“EXT/LINE” を選択します。



4. CURSOR [カーソル] [▲/▼]キーを押して“EXT > SP” 項目を反転表示します。



5. DATA [データ] ホイールを使って“ON” を選択します。外部マイクのスピーカー出力が可能になります。

メモ

この機能は外部マイクの入力音をスピーカーから出力する機能です。内蔵マイクの音はスピーカーから出力しません。マイクを1本だけで使用する場合は、“MONO MIX” を“ON” にするとL/R両方のスピーカーから音声を出力します。

注意

- “EXT > SP” モードが“ON” のとき、外部マイクをスピーカーに向けないでください。ハウリングを引き起こす可能性があります。
- FRONT MIC/EXT MICつまみやVOLUMEを上げるとハウリングを起こしやすくなりますので注意してください。

オーディオ CDの曲をSDカードに取り込む (BB-1000CDのみ)

CDの曲をSDカードに取り込むことができます。CDの曲はSDカードの現在使用しているフォルダに取り込まれます。取り込み先のフォルダを指定したい場合は、あらかじめ“BROWSE” 画面でフォルダを選択してください。レコーダーが停止していることを確認してください。

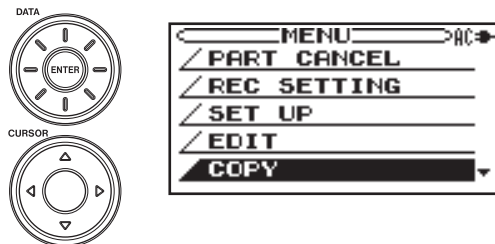
1. HOME [ホーム] キーを押してホーム画面を表示します。



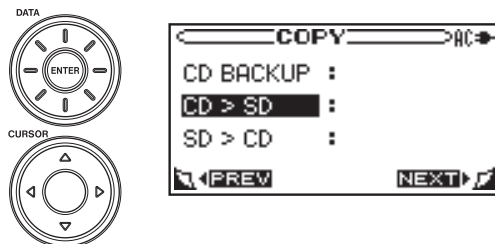
2. MENU [メニュー] キーを押して“MENU” 画面を表示します。



3. DATA [データ] ホイールまたは CURSOR [カーソル] [▲/▼] キーを使って“COPY” を反転表示し、ENTERキーを押します。



4. DATA [データ] ホイールまたは CURSOR [カーソル] [▲/▼] キーを使って“CD > SD” を反転表示し、ENTERキーを押します。



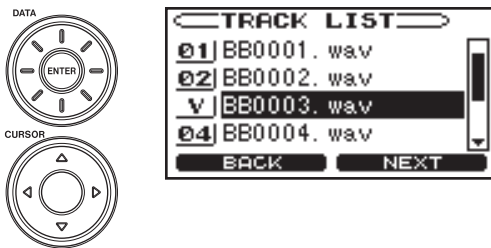
5. DATA [データ] ホイールを使ってSDカードに記録するファイル形式を選び、F2キーを押します。



メモ

ファイル形式には“WAV”、“MP3 (low)”、“MP3 (normal)”、“MP3 (high)”の4種類が選べます。録音できる時間は“WAV” < “MP3 (high)” < “MP3 (normal)” < “MP3 (low)” の順で長くなりますが、音質は低下します。

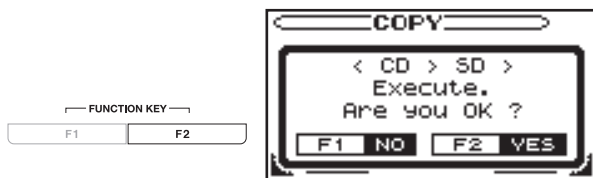
6. DATA [データ] ホイールまたは **CURSOR [カーソル]** [▲/▼] キーを使ってSDカードに取り込みたい曲を反転表示し、**ENTER**キーを押します。選択された曲にはチェックマークが付きます。



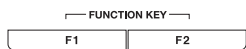
メモ

既を選択している曲を選んで **ENTER**キーを押すと、チェックマークが外れます。

7. 手順6.を繰り返して録音したいファイルを選び、**F2**キーを押します。確認画面を表示します。



8. F2キーを押すと曲の取り込みを開始します。終了後は、“**COPY**”画面に戻ります。**F1**キーを押すとこの操作をキャンセルして“**COPY**”画面に戻ります



SDカードのファイルを使ってオーディオCDを作成する (BB-1000CDのみ)

SDカードに記録されたファイルをオーディオCDにすることができます。CDにコピーするファイルは、SDカードの現在使用しているフォルダに含まれているものになります。あらかじめ“**BROWSE**”画面でオーディオCDにしたいファイルが含まれているフォルダを選択しておいてください。

メモ

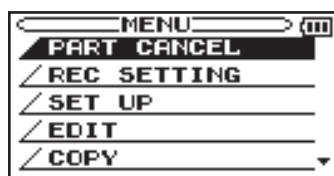
MP3ファイルをCDにコピーすることもできます。このとき、MP3ファイルを自動的にWAV形式に変換してオーディオCDにします。

レコーダーが停止していることを確認してください。

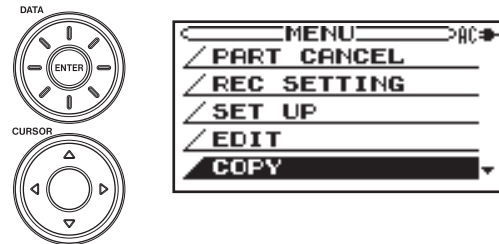
1. HOME [ホーム] キーを押してホーム画面を表示させます。



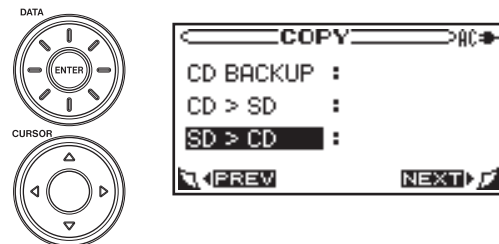
2. MENU [メニュー] キーを押して“**MENU**”画面を表示します。



3. DATA [データ] ホイールまたは **CURSOR [カーソル]** [▲/▼] キーを使って“**COPY**”を反転表示させ、**ENTER**キーを押します。

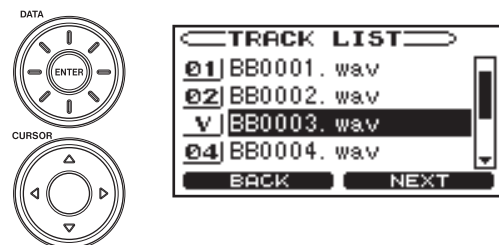


4. DATA [データ] ホイールまたは **CURSOR [カーソル]** [▲/▼] キーを使って“**SD > CD**”を反転表示し、**ENTER**キーを押します。



SD カードに録音されているファイルの“**TRACK LIST**”画面を表示させます。

5. DATA [データ] ホイールまたは **CURSOR [カーソル]** [▲/▼] キーを使ってCD-R/RWディスクに録音したいファイルを選択し、**ENTER**キーを押します。選択したファイルにチェックマークが付きます



メモ

既を選択しているファイルを選んで **ENTER**キーを押すと、チェックマークが外れます。

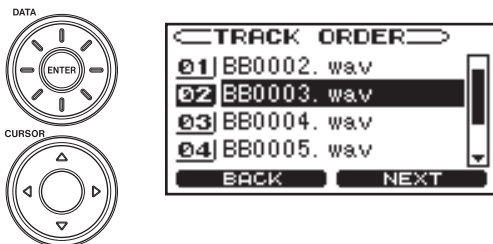
6. 手順5.を繰り返して録音したいファイルをすべて選び、**F2**キーを押します。



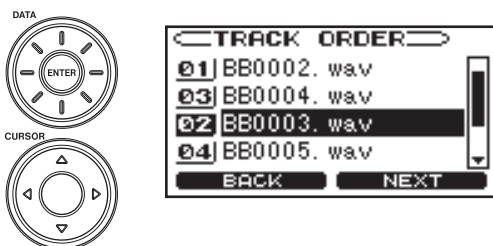
“**TRACK ORDER**”画面を表示します。

7. 曲順の変更も可能です。DATA【データ】ホイールまたはCURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って順番を入れ替えたいファイルを選び、ENTERキーを押します。

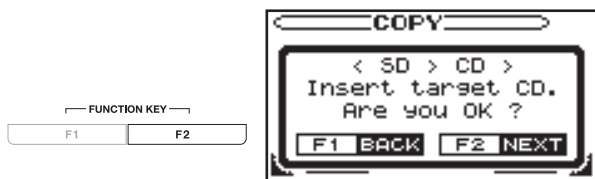
選択したファイルが反転表示して、曲順を変更できるようになります。



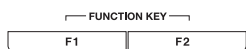
8. DATA【データ】ホイールまたはCURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って並び順を変更し、ENTERキーを押します。



9. 手順7.、8.を繰り返してファイルの並び順を変更し、F2キーを押します。以下の確認画面を表示します。



10. ブランク CD-R/RW をセットして、F2キーを押します。選んだファイルを CD-R/RW に書き込みます。同じ CD を更に作成したい場合は、書き込み終了後にメッセージに従って新しいブランクディスクを入れ、F2キーを押してください。F1キーを押すと、操作をキャンセルして“COPY”画面に戻ります。



オーディオ CD をバックアップする (BB-1000CD のみ)

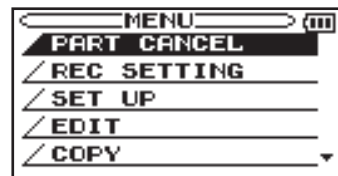
SD カードを使ってオーディオ CD のバックアップを作ることができます。

レコーダーが停止していることを確認してください。

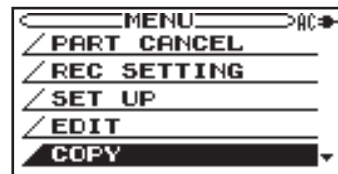
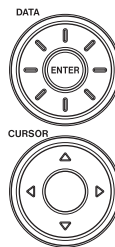
1. HOME【ホーム】キーを押してホーム画面を表示させます。



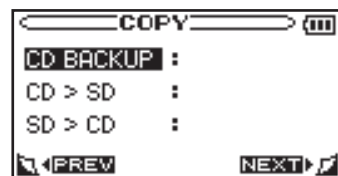
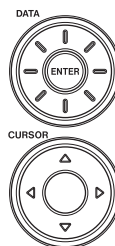
2. MENU【メニュー】キーを押して“MENU”画面を表示します。



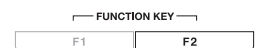
3. DATA【データ】ホイールまたはCURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って“COPY”を反転表示し、ENTERキーを押します。



4. DATA【データ】ホイールまたはCURSOR【カーソル】[▲/▼]キーを使って“CD BACKUP”を反転表示し、ENTERキーを押します。



5. 本機に SD カードとバックアップを取りたい CD をセットして、F2キーを押します。SD カードへの一時コピーが始まります。



メモ

SDカードの容量が足りない場合は、警告画面が表示されます。



残り容量が十分なSDカードをセットして、F2キーを押すと、バックアップを続行します。

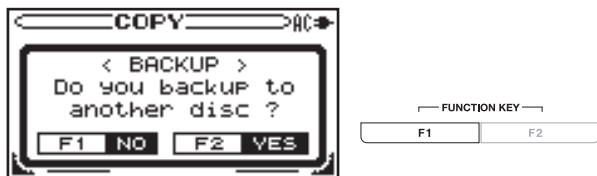


SDカードにCDの内容をバックアップすると、CDを自動的に排出し、新しいCD-R/RWを入れる確認メッセージを表示します。



6. ブランク CD-R/RW をセットし、F2キーを押します。

CD-R/RWへのバックアップを開始します。バックアップの完了後、ディスクは自動的に排出されます。更に同じバックアップディスクを作成したい場合は、新しいCD-R/RWを入れ、F2キーを押してください。F1キーを押すと、操作をキャンセルして“COPY”画面に戻ります。



第9章 環境設定 (SETUP 画面)

SETUP 画面

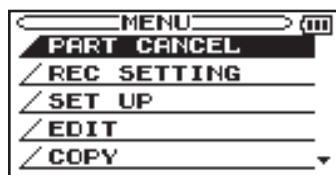
本機を快適に使うための設定を、“SET UP” 画面で行います。

レコーダーが停止していることを確認してください。

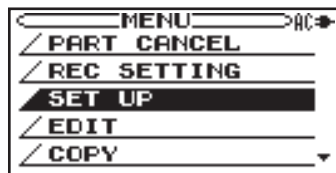
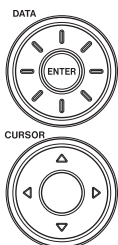
1. HOME 【ホーム】 キーを押してホーム画面を表示させます。



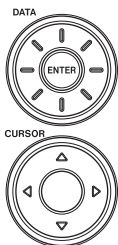
2. MENU 【メニュー】 キーを押して “MENU” 画面を表示します。



3. CURSOR 【カーソル】 [▲/▼] キーを使って “SET UP” を反転表示し、ENTER キーを押します。



4. “SET UP” 画面の各項目で、以下の設定を行うことができます。項目の選択は CURSOR 【カーソル】 [▲/▼] キーを使います。設定は DATA 【データ】 ホイールを使って行います。



バックライトのオートオフ設定 (BACKLIGHT)

電池駆動時に、最後に操作してからバックライトが消灯するまでの時間を設定します。

“OFF” (自動消灯しない)、“5sec” (初期値)、“10sec”、“15sec”、“30sec” から選択します。

ディスプレイコントラストの調整 (CONTRAST)

ディスプレイのコントラストを調整します。

“1” ~ “20” (初期値：“8”) の中から選択します。

フラッシュバックの設定 (FLASH BACK)

フラッシュバック機能で戻る秒数を設定します。

“1sec” ~ “5sec” (初期値：“2sec”) の中から選択します。

日時を設定する

本機内蔵の時計の日時を設定します (→ 20 ページ「日時を設定する」)。

第 10 章 メッセージ一覧

以下にポップアップメッセージの一覧表を示します。

本機では状況に応じてポップアップメッセージが表示されますが、それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときにこの表をご覧ください。

表示	内容と対処方法
File not found	ファイルが見つかりません。 対象の音楽ファイルが見つからないかファイル内容が壊れている場合に表示されます。 対象の音楽ファイルを確認してください。
Non-Supported	ファイルの形式がサポート対象外です。 対象の音楽ファイルの形式が対象外である場合に表示されます。対象のファイルのエンコード形式を確認してください。
Battery Empty	バッテリーが空です。 バッテリーがほとんど空の状態のときに表示されます。電源を切って電池を交換するか、専用 AC アダプター (TASCAM PS-1225L) に接続してください。
I/O Too Short	IN ポイントと OUT ポイントが近すぎます。 IN 【イン】 キー、OUT 【アウト】 キーでループ再生に入ろうとすると、始点と終点が非常に近すぎると表示されます。始点か終点を再度設定しなおして見てください。
Write Timeout	SD カードの書き込みが間に合いませんでした。ファイルを PC へバックアップの上、本機でフォーマットを実行してください (→ 22 ページ「SD カードをフォーマットする」)。
Media Full	SD カードの残容量がありません。 不要なファイルを削除するか PC へ移動してください。
Max File Size	ファイルのサイズが 2G バイトを超えました。あるいは録音時間が 24 時間を越えました。
File Full	フォルダ内のファイル総数がすでに 99 個に達しています。もしくは、フォルダとファイルの総数がすでに 999 個に達しています。不要なファイルを削除するか PC へ移動してください。
No Card	SD カードに録音しようとしたのですが SD カードがありません。録音可能な SD カードを挿入してから操作してください。
Protected Card	SD カードに録音しようとしたときなどに、SD カードにプロテクトがかかっていると表示されます。
Battery Low	バッテリーが残り少ないときに、録音しようとした。 バッテリーを交換するか、専用 AC アダプター (TASCAM PS-1225L) につないでから操作してください。
No CD	CD に録音しようとしたのですが、CD ディスクがありません。 録音可能な CD-R/RW を挿入してから操作してください。
Not Audio CD	CD に録音しようとしたのですが、CD ディスクがオーディオ CD ではありません。 録音可能な CD-R/RW に交換してから操作してください。
CD is CLOSED	CD に録音しようとしたのですが、CD ディスクがファイナライズ済みです。 CD-RW の場合は、アンファイナライズをすることによって録音が可能 (→ 34 ページ「CD-RW ディスクを追加録音できる状態にする (BB-1000CD のみ)」)。それ以外のメディアの場合は、録音可能な CD-R/RW に交換してください。
Format is MP3	オーバーダビングをしようとしたのですが、録音フォーマットが MP3 に設定されています。 “REC SETTING” の “FILE TYPE” を “WAV” に変更してから操作してください (→ 25 ページ「録音するファイル形式を設定する」)。
No PB File	オーバーダビングをしようとしたのですが、再生ファイル (トラック) が存在しません。 再生メディアが CD の場合は、ブランクではないオーディオ CD を挿入してから操作してください。再生メディアが SD カードの場合は、再生可能なオーディオファイルを追加してから操作してください。
Layer too Deep	これ以上深い階層のフォルダは作れません。ひとつ上のフォルダに作成してください。
File Protected	リードオンリー (読み出し専用) ファイルを削除、もしくは分割しようとした。このファイルは削除や分割ができません。
File Num Full	SD カードに録音中、ファイルの最大時間を越えたので自動で新規トラックを作成しようとしたのですが、すでに 99 ファイルが録音されているので、録音を止めました。
Over 74 minute	SD カードから CD へのコピーのトラック選択画面で、選択したトラックの総時間が 74 分を越えました。 コピー先の CD に 80 分のメディアを使用してください。もしくは、選択したトラックのうち、いくつかを解除してください。

第 10 章 メッセージ一覧

表示	内容と対処方法
Over 80 minute	SD カードから CD へのコピーのトラック選択画面で、選択したトラックの総時間が 80 分を超えました。コピー先の CD ディスクに 80 分メディアを使用しても、容量をオーバーしています。選択したトラックのうち、いくつかを解除してください。
Over track.	コピー機能のトラック選択画面で、選択したトラックが 99 を超えました。これ以上のトラックは選択できません。選択したトラックのうち、いくつかを解除してください。
Cannot Execute	以下の場合には実行不可です。 <ul style="list-style-type: none"> オーディオ CD 以外もしくは CD-RW 以外で “ERASE” を行った。 オーディオ CD 以外もしくは CD-R/RW 以外で “FINALIZE” を行った。 オーディオ CD 以外もしくは CD-RW 以外で “UNFINALIZE” を行った。
Finalized Disc	ファイナライズ済み CD-R/RW に対して “FINALIZE” を行いました。ファイナライズは済んでいますので必要ありません。
Not Finalized	未ファイナライズの CD ディスクに対して “UNFINALIZE” を行いました。ファイナライズがされていないので、“UNFINALIZE” は必要ありません。
Execute Failed	“FINALIZE” / “UNFINALIZE” / “ERASE” 失敗。何らかの原因で実行を失敗しました。メディアの傷、汚れ等を確認してください。
Cannot DIVIDE less than 2sec	2 秒以下の WAV ファイルで “DIVIDE” の実行を選択しました。 2 秒以下の WAV ファイルは “DIVIDE” ができません。
MBR Error Init CARD	SD カードの初期化が不正です。SD カードのフォーマットが異常、もしくは壊れています。“Are you Sure ?” 表示の状態では ENTER キーを押すことで SD カード全域が FAT にフォーマットされます。SD カード上のデータはすべて消えます。
Format Error Format CARD	SD カードのフォーマットが不正です。SD カードの FAT フォーマットが異常、もしくは壊れています。
Invalid Card Change Card	起動時に SD カードが何らかのエラーとなってしまう場合に表示されます。
Card Error	SD カードによるなにかしらのエラーです。いったん電源を切り、SD カードを正常なものと差し替える必要があります。
Disc Error	CD ディスクの書き込みに失敗しました。CD ディスクの傷、汚れ等を確認してください。
CD Drive Error	これらのエラーが出る場合は、電源を入れなおしてください。 電源を切ることができない場合は、電池や AC アダプターを取り外してください。 頻発する場合はティアック修理センターにご相談ください。
Not Continued	
File Error	
Player Error	
Device Error	
Writing Failed	
Sys Rom Err	
System Err 50	
System Err 1	
System Err 2	
System Err 3	
System Err 4	
System Err 5	
System Err 6	
System Err 7	
System Err 8	
System Err 9	

第 11 章 トラブルシューティング

本機の動作がおかしいとき、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。それでも改善しないときは、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。

● 電源が入らない。

↓

- 電源プラグがしっかりと差し込まれていますか？
- 電池の ⊕、⊖ を間違っ てセッ トしていませんか？

● リモコンから操作できない。

↓

- リモコンの電池が入っていないか、消耗していませんか？

● 音が出ない。

↓

- ヘッドホンをつないでいませんか？
- SPEAKER スイッチが OFF になっていませんか？
- モニターシステムはきちんと接続されていますか？
- VOLUME が MIN になっていませんか？

● 録音しようとするサウンドが歪んで聞こえる。

↓

- 本機のトップパネルの FRONT MIC/EXT MIC 【前面マイク / 外部入力】 または REAR MIC/LINE 【背面マイク / ライン入力】 つまみが上がりすぎていませんか？
または、入力信号のレベルが高すぎませんか？

● 雑音がする。

↓

- 接続ケーブルが接触不良になっていませんか？

● CD を再生できない。

↓

- ディスクに傷やよごれが付いていませんか？

● 入力レベルの調節が各つまみでできない。

↓

- AGC (オートゲインコントロール) 機能を使用していませんか？

● 本機で録音した CD が他の CD プレーヤーで再生できない。

↓

- ファイナライズは済んでいますか？

● 再生音が不自然に聞こえる。

↓

- パートキャンセル機能がオンになっていませんか？
- 再生の音程を変えていませんか？
- 再生のスピードを変えて変えていませんか？

第12章 仕様

定格

● 記録メディア

SDカード (64Mバイト~2Gバイト)、および SDHCカード (4Gバイト~32Gバイト)
CD-R、CD-RW、CD-R-DA、CD-RW-DA
(CD-RWは High Speedに対応) (BB-1000CDのみ)

● 再生メディア

SDカード (64Mバイト~2Gバイト)、および SDHCカード (4Gバイト~32Gバイト)
CD-DA、CD-R、CD-RW、CD-R-DA、CD-RW-DA
(CD-RWは High Speedに対応) (BB-1000CDのみ)

● 録音 / 再生フォーマット

WAV (SD/SDHCカード使用時)
サンプリング周波数: 44.1kHz
量子化ビット数: 16ビット
MP3 (SD/SDHCカード使用時)
サンプリング周波数: 44.1kHz
ビットレート: 64kbps、128kbps、192kbps (録音時)
32kbps~320kbps (再生時)
CD-DA (CD-R、CD-RW、CD-R-DA、CD-RW-DA使用時、
BB-1000CDのみ)
サンプリング周波数: 44.1kHz
量子化ビット数: 16ビット

● チャンネル数: 2チャンネル

オーディオ入出力定格

● LINE INPUT (L/R) [UNBALANCED] 端子

コネクター: RCAピンジャック
規定入力レベル: -10dBV
最大入力レベル: +6dBV
最小入力レベル: -22dBV
入カインピーダンス: 20k Ω

● EXT MIC A/B (L/R) [BALANCED] 端子

コネクター: XLR-3-32相当
(1: GND、2: HOT、3: COLD)
基準入力レベル: -13dBu
最大入力レベル: +3dBu
最小入力レベル: -55dBu
入カインピーダンス: 2.4k Ω

● 内蔵マイク:

前: 無指向性 L/R
後: 無指向性 L/R

● LINE OUTPUT (L/R) [UNBALANCED] 端子

コネクター: RCAピンジャック
規定出力レベル: -10dBV
最大出力レベル: +6dBV
出カインピーダンス: 200 Ω

● PHONES 端子

コネクター: ステレオミニジャック (Φ 3.5 mm)
定格出力: 30mW+30mW以上
(THD+N 1.0%以下 32 Ω 負荷)

● スピーカー

3インチ x 2

● アンプ出力

5W+5W

オーディオ性能

● 周波数特性

20 - 20kHz (\pm 1dB)

● 歪み (THD+N)

0.05% (1kHz LPF: 20kHz)

● S/N 比

85dB (1kHz、LPF 20kHz A-Weighted)

一般

● 電源: ACアダプターまたは単3形電池8本

● ACアダプター (TASCAM PS-1225L)
ACアダプター入力: AC100-240V、50-60Hz
ACアダプター出力電圧: 12V DC
ACアダプター出力電流: 2.5A

● 電池持続時間 (連続動作時):

約1.5時間 (JEITA CD再生、スピーカー出力時)(BB-1000CDのみ)
約2.5時間 (JEITA SD録音/再生、スピーカー出力時)
約4.5時間 (JEITA SD録音/再生、ヘッドホン出力時)

● 消費電力: 30W (SD再生、Line In: +6dBV入力、スピーカー最大出力)

● 外形寸法: 380 x 204.7 x 107mm (幅 x 高さ x 奥行)

● 質量:

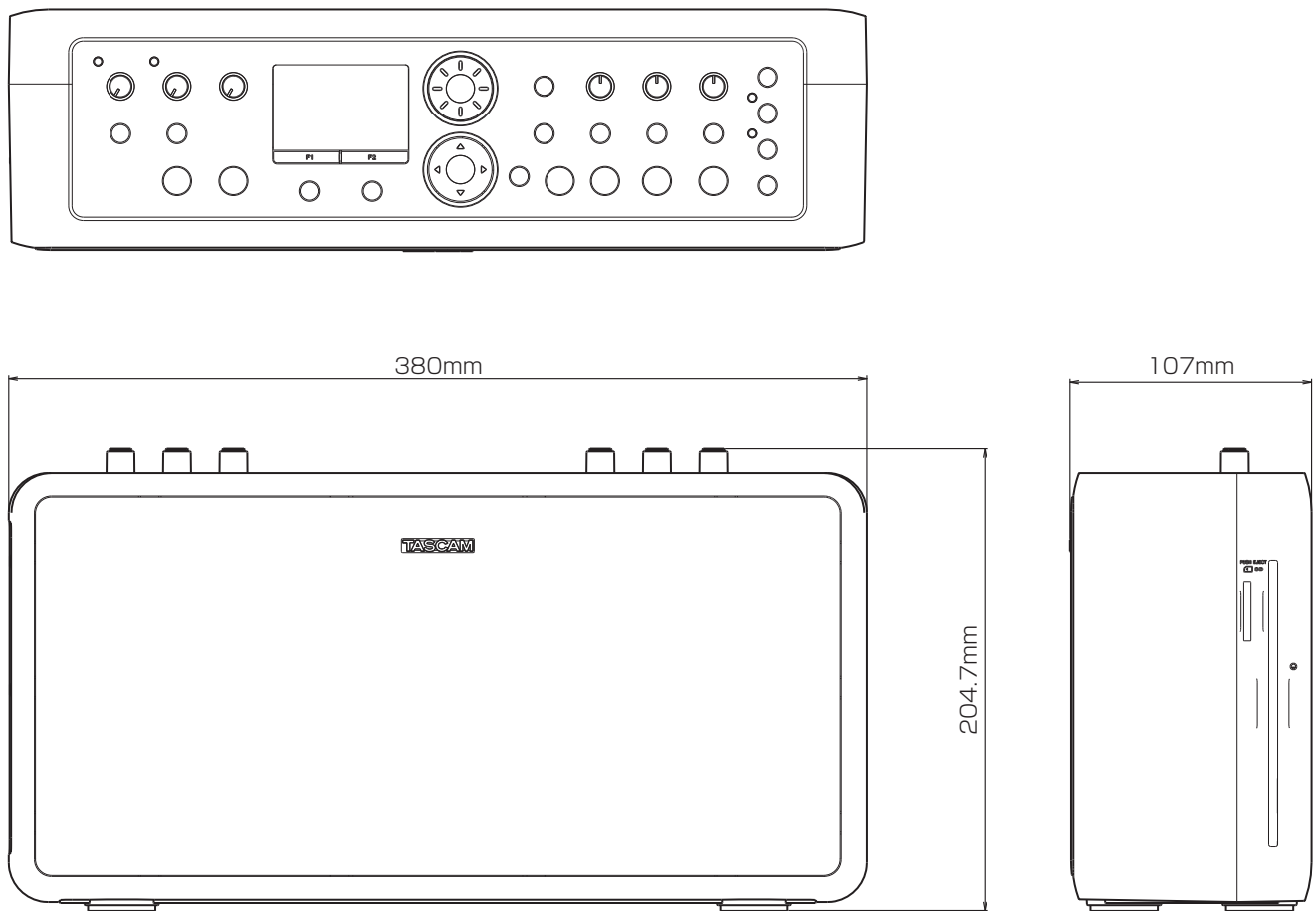
BB-1000CD: 3.4kg
BB-800: 3.2kg

● リモートコントロールユニット動作範囲:

正面: 7m以内
左右15度以内: 4m以内

● 使用温度範囲: 5 ~ 35 $^{\circ}$ C

寸法図



- * 仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。
- * 製品の改善により、取扱説明書のイラストなどが、一部製品と異なることがあります。あらかじめご了承ください。
- * 寸法図は、BB-1000CDのものですが、BB-800も同じ寸法です。

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポートまでご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く 10:00～12:00/13:00～17:00 です。

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-4-7



0120-152-854

携帯電話・PHS・IP 電話などからはフリーダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。

お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く 9:30～17:00 です。

ティアック修理センター 〒190-1232 東京都西多摩郡瑞穂町長岡 2-2-8

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。



0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。PHS・IP 電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

新電電各社をご利用の場合は、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合 1-4-7

<http://www.tascam.jp/>